



立花城址より福岡市東区人工島（博多湾）遠望

文化・歴史はその地域において一人ひとりの活動によって長い期間を通じて創られています。しかし、自然はその地域において一人ひとりが創り上げたそれらを一瞬にして無くすこともあります。われわれは現在の地域や都市の文化・歴史がその地域の文化・歴史を一人ひとりの活動によって形成されたことを大切にすべきであります。われわれはそれが地域・都市の財産であるということに気づくべきであります。



高橋紹運・岩屋城址（本丸跡）



JR 博多シティ（博多駅）屋上から福岡市街地（博多港方面）を望む

はじめに

筆者は、これまで『早良逍遥マップ記―歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ―』、『続 早良逍遥マップ記―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―』および『福岡都市圏歴史散策マップ記』の3冊を上梓いたしました。早良は現在の西区、早良区および城南区であるが、この早良には太閤道、唐津街道、三瀬街道および早良街道があり、唐津街道および三瀬街道は宿場町を有していました。そうした旧街道沿いには灰塚古墳、夫婦塚古墳および装飾古墳、官公（菅原道真）ゆかりの地、宰府道、元寇跡、探題址、荒平城址および曲渕城址、江戸期の農業指導者宮崎安貞、明治期の農業指導者林遠里と伊佐治八郎、江戸期の学者貝原篤信（益軒）、伊藤常足および青柳種信、明治期から昭和初期にかけての採炭がなされていた西新炭鉱、麓原炭鉱、鳥飼炭鉱、樋井川炭鉱および姪浜炭鉱、北筑軌道跡など多くの遺跡が存在し、古代、中世および近代から現在まで人の交流や活動がなされてきたことを意味しています。この早良に福岡都市圏の地域を含めると、とくに、現在の東区には仲哀天皇・神功皇后・応神天皇・武内宿禰に関する遺跡等が多く存在しています。中央区は、江戸期の学者福岡一純と高取周成、亀井南冥・昭陽親子、日本帝国憲法の草案作成者の金子堅太郎、明治期の福岡3私塾（瀧田紫城の折中塾、正木正陽の不狭学舎、高場乱の興志塾）、3私塾からの頭山満および箱田六輔、外交官栗野慎一郎などの人々が活躍しています。また、那珂川町では神功皇后・武内宿禰や、元寇の役で活躍した少貳氏関連の遺構等が数多く存在しています。

「まちおこし」を考えると、さまざまなアプローチからのものを考えることが出来ませんが、本書は一人ひとりの交流や活動の結果である歴史・文化の推移を知ることが重要であると提案するものです。

本書の構成は、第Ⅰ部「まちおこし」の予備知識として、お賽“銭金額と初詣数”と“ハウステンボスの波及効果（1998年当時）の事例”を取り上げています。“銭金額と初詣数”の初詣数は新聞紙上で発表されますが、年間詣で数は神社仏閣に問い合わせても一部を除き不明のケースが多いようです。年間詣で数を換算で求める方法を示しています。“ハウステンボスの波及効果の事例”は、たとえば何らかの企画で人が集まり一定の消費がなされた場合、どのくらいの経済効果があるかを簡単な考え方と計算で求める方法を示しています。第Ⅱ部「福岡県の歴史と文化について」は“高取焼”と“元寇”を取り上げています。高取焼を取り上げたのは陶磁器のなかで有田焼、萩焼、瀬戸焼、美濃焼、備前焼、九谷焼および信楽焼などと比較して知名度が低く、福岡市民でも“高取焼”という焼物は聞いたことがあるという程度の人が非常に多いと感じられるからですし、“高取焼”の歴史を知ることによって「まちおこし」の参考になるものと思うからです。また、“元寇”を取り上げたのは福岡市民でも元寇と聞けば元寇防塁、2回の元寇の役、神風（台風）による元・高麗軍の退散などの知識が一般的です。しかしながら、元寇は鎌倉執権時代の国難に戦った人々の知られていないさまざまな史跡・遺構などが残っています。これらの史跡・遺構

などに焦点をあてることにより「まちおこし」の参考になるものと思うからです。第Ⅲ部「福岡県以外の歴史と文化について」はすでに「まちおこし」をおこないそれなりの成果をあげている地域（区）・都市を取り上げています。本書で取り上げています肥前浜宿および塩田宿、豊後高田市、高松市、高崎市および川越市は「まちおこし」に、地域リーダーだけでなく、その地域・都市の文化・歴史などに応じて、大学の研究室との連携、株式会社化、民間のコーディネータの役割などが重要であると思われます。

本書は人々の行動や活動の成果としての文化と歴史が「まちおこし」をおこなううえにおいて重要な要因となることを提案します。本書を企画しているときに東日本大震災（3月11日）がありました。被災地の方々には大変なご苦勞をなされていることだと思いますが、テレビによる津波の映像を観るにつけ文化・歴史は長い期間の積み重ねで形成されますが、それは一瞬にして消え去ることもあり得ることも痛感いたしました。津波が起こることでもなくとも、文化・歴史の遺構等は長期においては存在するかどうかは、人々の意識や行動の結果によっては不明であると思われます。それゆえに、文化・歴史の遺構等は長期において変化があってもその変化とともに残していくことが必要だと感じています。そのために、われわれは何らかの形で文化・歴史の記録をとどめておくことが必要であろうと痛感している次第です。われわれはすべての文化・歴史を記録にとどめることはできませんが、本書が少しでも地域社会の発展に役立てば幸いだと思っています。

ところで、上記「逍遙マップ記」の“逍遙”とはぶらぶら歩くという意味で、“マップ”は地図で手書きのものであり、“記”は気がついた事柄を記録にとどめることを意味します。よって、「逍遙マップ記」はぶらぶら歩きながらどのくらいの地点に史跡等があるかを示し、その史跡等の事柄を記録にとどめ、コメントを述べることを意味します。“逍遙”というタイトルがついてなくても筆者が上梓する書籍は基本的には「逍遙マップ記」の内容を意味しています。

本書では、各史跡等について参考文献・資料や引用頁等を示しています。掲載しています写真は筆者が逍遙しながら撮ったもので、陶磁器等の写真は著作権等のため参考文献を参照していただきたい。

目 次

はじめに

第Ⅰ部「まちおこし」の予備知識として

(1) お賽銭金額と初詣数	2
(2) ハウステンボスの波及効果（1998 年当時）の事例	4

第Ⅱ部 福岡県の歴史と文化について—高取焼と元寇について—

1. 高取焼（直方市、須恵町、南区皿山、能古島、早良区高取）の歴史と その周辺地域の史跡について	7
2. 元寇の歴史とその周辺地域の史跡について	39
(1) 福岡市（含：糸島市）の史跡	41
(2) 那珂川町の史跡	56

第Ⅲ部 福岡県以外の歴史と文化について

3. 肥前浜宿（佐賀県鹿島市）と塩田宿（佐賀県嬉野市）	67
(1) 浜中町八本木宿伝統的建造物群保存地区（通称：酒蔵通り）	70
(2) 嬉野市塩田津伝統的建造物群保存地区	74
4. 大分県豊後高田市（昭和の町）	77
5. 香川県高松市	87
(1) 高松市中央商店街周辺	90
(2) 金比羅宮周辺	94
6. 埼玉県川越市	99
7. 群馬県高崎市	107
おわりに	113
著者紹介	114

第Ⅰ部「まちおこし」の予備知識として

わが国は少子高齢社会に入り 65 歳以上の人口の増加がある反面、生産年齢人口の減少とともに、総人口も減少傾向を辿っています。表 1 はその傾向を基本的に人口問題研究所「日本の将来推計人口」より作成しています。国際連合（略称：国連）の高齢社会の定義は 65 歳以上の年齢人口が 14%に到達することです。わが国は 1994 年に高齢社会に到達し、現在は超高齢社会といわれています。表 2 は、フランスが 130 年かけて高齢社会になっているのに対し、わが国は 24 年間で高齢社会となっていてわが国がいかに高齢化の速度が速いかわることができます。

表1. 中位推計による将来推計人口（平成9年1月推計）

〔単位：1000人，％，歳〕

年次	総数実数	0－14歳		15－64歳		65歳以上		75歳以上	
		実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
1950	84115	29786	35.4	50163	59.6	4155	4.9	1069	1.3
1955	90077	30123	33.4	55167	61.2	4786	5.3	1388	1.5
1960	94302	28434	30.2	60469	64.1	5398	5.7	1642	1.7
1970	104665	25153	24.0	72119	68.9	7393	7.1	2237	2.1
1980	117060	27507	23.5	78835	67.3	10647	9.1	3660	3.1
1990	123611	22486	18.2	85904	69.5	14895	12.0	5973	4.8
1995	125570	20014	15.9	87165	69.4	18261	14.5	7170	5.7
1999	126686	18742	14.8	86758	68.5	21186	16.7	8489	6.7
2000	126892	18602	14.7	86419	68.1	21870	17.2	8885	7.0
2005	127684	18235	14.3	84443	66.1	25006	19.6	11153	8.7
2010	127623	18310	14.3	81187	63.6	28126	22.0	13349	10.5
2015	126444	17939	14.2	76622	60.6	31883	25.2	15020	11.9
2020	124133	16993	13.7	73805	59.5	33335	26.9	16645	13.4
2025	120913	15821	13.1	71976	59.5	33116	27.4	18887	15.6
2030	117149	14882	12.7	69500	59.3	32768	28.0	19239	16.4
2035	113114	14347	12.7	65981	58.3	32787	29.0	18400	16.3
2040	108964	14062	12.9	61176	56.1	33726	31.0	17795	16.3
2045	104758	13712	13.1	57549	54.9	33497	32.0	17856	17.0
2050	100496	13139	13.1	54904	54.6	32454	32.3	18865	18.8

各年10月1日現在の人口等である。

構成比合計はまるめの誤差のため必ずしも100%にならない。

資料出所：平成11年以前は、総務省「国勢調査」と「推計人口」、平成12年以降は国立社会保障・人口「日本の将来推計人口」より作成。

表2. 人口高齢化速度の国際比較（65歳以上人口比率の到達年）

高齢化到達年	日本	アメリカ	イギリス	旧西ドイツ	フランス	スウェーデン
7%	1970	1945	1930	1930	1865	1890
14%	1994	2015	1965	1975	1995	1975
所要年数	24年	70年	35年	45年	130年	85年

<http://www.chitanet.ip/users/10010005/pcshakai.htm>より作成。

このように急速な人口構成の変化は年金問題や非正規雇用問題をはじめさまざまな問題を引き起こすとともに、地域経済活動の低調にともなう商店街の衰退などをもたらしています。商店街の衰退は大規模小売店舗立地法（大店立地）の廃止がきっかけとなっています。従来は大型店が出店する際には、売り場面積や開店時間などについて、地元商店が入った地域ごとの商業活動調整協議会（商調協）で調整が図られ、既存商店街は規制に守られてきました。1992 年改正大店法で商調協が廃止され、郊外型の大型店舗進出が加速し、

また商店街自体も高齢化や後継者不足がおこり、駅前商店街などがシャッター通りになるなど空洞化（空き店舗率は全国平均で約 11%）が続いています。商店街の衰退は地域の祭りや伝統行事や安全安心の担い手を失うこととなり、その土地ならではの文化の継承が難しくなってきました。商店街には再生のリーダーが必要であり、地域コミュニティのコア（核）となる拠点としての商店街の必要性があります。

地域再生については、その地域の歴史および伝統文化などその地域の特性に基づいて再生をおこなっていく必要があると思われます。本書で取り上げます高取焼は現在福岡市早良区の旧唐津街道の西新商店街[オレンジ通り商店街（樋井川から城南線まで）、西新中央商店街（城南線から早良街道の脇山口まで）、中西商店街（早良街道の脇山口から高取との町界まで）、高取商店街（高取との町界から高取 2 丁目町界まで）、藤崎商店街]沿いにあります。全国の多くの商店街がシャッター通りと呼ばれるように活気がないのに対し、西新商店街は様々な工夫がなされ活気ある商店街となっています。ただ 5 つの商店街のなかでも格差があるように感じられます。ところで、中西商店街の近くには東皿山（黒田藩御用窯）、高取商店街と藤崎商店街の近くには西皿山（民生品用）が過去には存在し、高取焼の生産がなされていました。現在は、高取焼味楽窯（早良区高取 1 丁目）と豊泉窯（早良区飯倉 2 丁目）の二つの窯があります。

ところで、福岡市民（全国的）は有田焼（佐賀県）、唐津焼（佐賀県）、萩焼（山口県）、信楽焼（滋賀県）、九谷焼（石川県）、備前焼（岡山県）、小鹿田焼（大分県）および小石原焼（福岡県）などは知っていても、上記の商店街のそばに昔も今も存在していたかつ存在している高取焼の知名度についてはかなり低いものでしかありません。その理由は、明治以降は黒田藩からの後ろ盾がなくなったことと、古高取がその特質から萩焼や唐津焼などと認識されていたものと考えられるからです。しかしながら、古高取の発掘からこれまで萩焼や唐津焼などと考えられていたものが、古高取と再認識されるにしたがって、高取焼が有田焼のように全国区の知名度となれば、そこには高取焼を目的とする観光客（訪問客）が訪れることになるものと思われます。現在の高取焼窯のすぐ近くには紅葉八幡宮があります。紅葉八幡宮は 1666（寛文 6）年当時の藩主黒田忠之が樋井川べりに移し、1913（大正 2）年に現在の早良区高取 1 丁目に移っているが、現在の紅葉八幡宮の正月三が日の初詣客は 10 万人である。年間に換算すると約 30 万人が訪れることになります。

以下では地域再生および地域活性化のための例として「お賽銭金額と初詣数」、「波及効果」について述べてみます。

（１）お賽銭金額と初詣数

神社仏閣への初詣における平均的なお賽銭はどの位であるのでしょうか、日本銀行松本支店が 2005 年の正月三が日に長野県内主要寺社 19 社を調べた結果、「初詣客 1 人当たりの

賽銭額」は 114 円、2006 年が 93 円、2007 年が 108 円であったとのことでした。また、ウェザーニューズ社の 2011 年 1 月 11 日の年始調査によれば、表 3 が都道府県上位および下位それぞれ 10 位の初詣のお賽銭ランキングとなっています。都道府県平均（全国平均）は 149.3 円となっています。表 4 は福岡都市圏神社三が日初詣数となっています。

表3. 初詣のお賽銭ランキング（全国平均：149.3円）

順位	都道府県	金額	順位	都道府県	金額
1	福 井	238.9	38	宮 崎	131.6
2	奈 良	208.7	39	静 岡	131.5
3	石 川	200.9	40	山 梨	129.2
4	佐 賀	190.4	41	山 口	126.9
5	大 分	187.6	42	高 知	121.7
6	富 山	187.3	43	宮 城	118.2
7	秋 田	185.4	44	山 形	111.5
8	沖 縄	183.1	45	愛 媛	102.0
9	北 海 道	182.5	46	岩 手	97.3
10	新 潟	177.0	47	徳 島	90.0

表4. 福岡都市圏神社三が日初詣数（2010年）

太宰府天満宮	200万人	太宰府市幸府
宮地嶽神社	105万人	福津市宮司
宗像大社	65万人	宗像市田島
箱崎宮	50万人	福岡市東区箱崎
香椎宮	30万人	福岡市東区香椎
護国神社	20万人	福岡市中央区六本松
紅葉八幡宮	10万人	福岡市早良区高取

これらのお賽銭金額や初詣数から次に示します波及効果等の計算が出来ます。以下に示します波及効果の考え方は、長崎県のハウステンボスを創設されました神近義邦氏のハウステンボスの波及効果が分かりやすく書かれています講演集（九州共立大学経済学部）がありますのでそのなかの講演内容を紹介します。なお、現在、ハウステンボス自体は経営者が変わっていますが、初期投資 5,400 億円という巨大プロジェクトであり、グローバルな経済状況も変化していますのでうまくいかなかったという実情がありましたが、波及効果の考え方は誰にも理解しやすい話でありますので紹介する次第です。ハウステンボスの入場者は 1 年目 375 万人、2 年目 390 万人、3 年目 383 万人、4 年目 403 万人、5 年目 425 万人で、4 年目と 5 年目は 22 万人増加しています。この 22 万人のうち、日本国内からの観光客 6 万人、アジアからの観光客 16 万人ということでした。

以下に述べますハウステンボスと現在のハウステンボスとは経営環境が異なることに注意をしていただきたいと思います。波及効果の一般的な分析方法としては産業連関分析が

ありますが、本書では一般の方誰もが理解しやすく、しかも観光として訪れたり、見聞きたことがありますハウステンボスを事例として取り上げています。

（２）ハウステンボスの波及効果（1998 年当時）の事例

ハウステンボスでの 1 年間の食事は約 1,000 万食、この食事の売上が 115 億円で、米、みそ、醤油、肉、魚、フルーツおよび野菜などの仕入が 40 億円。農業や漁業従事者の 1 年間の 1 世帯当たりの収入を約 1,000 万円とした場合、 $4,000,000,000 \div 10,000,000 = 400$ 世帯（戸）、1 世帯 3 人の標準世帯人数を掛け合わせると、 $400 \times 3 \text{ 人} = 1,200$ 人を養えることになります。

ハウステンボスでは 30 万本の花が年中咲いた状態であるとのこと。これは花農家と契約栽培しています。花農家への支払金額が 7 億円ということから、1,000 万円の収入を得る農家を 70 戸、 $70 \times 3 \text{ 人} = 210$ 人を養えることになります。契約栽培の内容は、当時では、ハウステンボスがオランダからチューリップの球根を 1 個 16 円で輸入し、20 円で花農家に卸しているということです。花農家はポットを購入し、培養土をつくってそれに球根を植えています。花が咲く直前に、ハウステンボスに運び、それを植え込み、1 本に対して 220 円を支払っているとのこと。花農家は $220 - 20 = 200$ 円の粗利を得ることになります。

ハウステンボスの物品販売の売上高は年間 180 億円。たとえば、地元の九十九島 SK ファームのチーズケーキは年間に単価 2,000 円のものが 11 億円売れているとのこと。これら土産の仕入原価は 52%。ただ、そのうちにイタリアやオランダから仕入れているもの（ファッション関係、チーズ、チョコレートなど）が年間 22 億円ある。原価を考慮した売上高は約 93 億円（ $= 180 \times 0.52$ ）、このうち 22 億円が海外からの輸入（仕入）になるとのこと。残りの $93 - 22 = 71$ 億円が地元からの仕入れになることになります。これを 1,000 万円で割ると、すなわち、 $7,100,000,000 \div 10,000,000 = 710$ 戸が養える戸数、レストランで使う材料が 400 戸、花農家が 70 戸で、合計 1,180 戸で、 $1,180 \times 3 \text{ 人} = 3,540$ 人を養えることになります。

ハウステンボスの社員数が正社員 2,700 人、準社員 800 人の計 3,500 人。ハウステンボスの人件費は約 150 億円。430 万円。3,500 人が 2,000~2,500 台でマイカー通勤しているとのこと。平均 4 年で車を買替えているので、年換算 500 台以上の車が売れることになります。そのことは、ガソリン代、修理代、保険という波及効果があるということになります。床屋、美容院、銀行、郵便局、コンビニなども必要になるでしょう。これが第 1 次の波及効果、ハウステンボスの社員の人や取引先の人達が生活するために消費する第 2

次効果・・・・・・・・・・。コンビニで買い物をすると、そこに商品を卸している人たち、そこで働いている人たちの給与というのに対してどれ位の波及効果があるかはかりしれないのです。ハウステンボスという街がそこに誕生したことによる波及効果は 2,500 人位の人たちの雇用創造となっています。

読者の方々には、上記のお賽銭金額と初詣数、ハウステンボスの波及効果等を上手く組み合わせて、商店街への人の流れと波及効果を計算し、「まつづくり」に活かしてください。

神近義邦「千年の街を創る」『1998 九州共立大学経済学会セミナー』九州共立大学経済学会, 1998. 5~7 頁.

菅野和夫・江頭憲治郎・小早川光郎・西田典之 編集代表『六法全書 平成 19 年度版Ⅱ (民事法・会社法・産業法)』有斐閣, 2007. 5623~5624 頁.

黒木宏一・内山敏典『有田・伊万里および福岡地域における消費者の意識調査分析—新しい陶磁器需要創造および生産構造をめざして—』九州産業大学・柿右衛門様式陶芸センター, 2009.

大河直躬・三舩康道編『歴史的遺産の保存・活用とまちづくり (改訂版)』学芸出版社, 2006.

戸田修三 編集代表『商経六法 1987』三省堂, 1987. 955~960 頁.

十代田朗編『観光まちづくりのマーケティング』学芸出版社, 2010.

第Ⅱ部 福岡県の歴史と文化について

—高取焼と元寇について—

1. 高取焼（直方市、須恵町、南区皿山、能古島、早良区高取）の歴史とその周辺地域の史跡について

慶長の役に出陣した黒田長政は当時の朝鮮の韋登（イト）の陶工八山（のち高取八蔵）を、加藤清正は新九郎（八蔵の妻の実父で一時肥後南関の小代焼に従事）をともなって凱旋した。長政は1598（慶長3）年11月に豊前中津に凱旋したが、1600（慶長5）年12月に筑前に転封（国替え）を命ぜられ福岡に移城した。八山は筑前領内の鞍手郡鷹取山^{注1)}（鷹取城：初代城主 母里太兵衛、二代城主 手塚氷雪）の麓である永満寺宅間に開窯（宅間窯は全長16.6mの竹割型の登り窯：直方市教育委員会主導の発掘調査より）をした。一国一城令のため鷹取城は廃城となり、この窯は頓野の内ヶ磯（内ヶ磯窯は全長46.5mの半地下式連房階段状登り窯：直方市教育委員会主導の発掘調査より）に移され、新九郎も来て製陶したが新九郎は早く没している。寛永年間（1624～1643年）、藩主忠之の時、八蔵父子を京の伏見で茶匠小堀遠州^{注2)}の下で指導を受け、茶入製作に専念している。また、唐津の浪人、五十嵐右衛門は瀬戸の陶法に通じ、筑前に来たので、八蔵とともに高取窯で製陶をおこなった。当時の作は遠州高取と称せられ、なかでも染川・高取見附などの茶入がよく知れわたっている。八蔵および五十嵐の子孫は、寛永7年頃に穂波郡合屋郷中村（現在の飯塚市）の白旗山^{注3)}北麓に移窯、さらに転々〔小石原村の鼓（現在の朝倉郡東峰村）〕として、宝永5年には早良郡麓原村上の山に移り、ここで茶器などを作っていたが、一切は藩庁の経営であって、これを東皿山と称している。高取は慶長以後の製で、唐物同様に左糸切で茶軸の上に黒釉斑の現れたものであった。八蔵の作は朝鮮のものによく似ているが、のち狩野風の墨画のものもあった。古作の茶入には下葉はないが、五十嵐が瀬戸風を加えて以来、下葉も加わってきた。高取焼は蹴轆轤^{しゅうろくろ}で登窯を用いているが、明治34年頃、高取英一の再興した頃はゼーゲル^{注4)}13番火度であった。明治以降の原料は土石数種を調合したが、釉薬は高宮（わら灰、木灰および長尾長石を配合し、焼成による発色は緑色を帯びた褐色）・道化（木灰、長尾長石および酸化鉄を配合し、まだら状の茶褐色）・布嚙志（木灰および、長石を配合し、透明釉）・緑青（わら灰、木灰、長石および銅を配合し、緑色）・白（わら灰、もみがら灰、木灰および長石を配合し、白色）・黒（わら灰、木灰および酸化第二鉄（いわゆるベンガラ）を配合し、黒褐色）・黄（わら灰、木灰および酸化鉄を配合し、あずき色に近い茶褐色）等七色の変化を見せていた。また、高取焼の一族は上座郡小石原中野で磁器を製し日用器皿を焼いている。

1741（寛保元）年に、藩は小石原の陶工である柳瀬三右衛門に西皿山（現在の高取2丁目）に開窯させた。そのときに一門の陶工である早川、中川（後の亀井）、長沼、原、梶島などの人々も移り住み、それぞれ一帯に窯を築いている。東皿山とともに藩の窯であるが、東皿山は主に藩主の贈答品（茶陶、香炉および置物など）を生産し、西皿山は日用品の生産が中心であった。藩の保護がなくなった明治以降の高取焼は日用雑器、茶器、置物から産業、建設用などその時々需要に応じて製品の生産をしていっている。また、高取焼には多くの業者がいたので日用品の火鉢、水瓶、湯呑み類といった多種多様の生産がなされ、とくに陶器ポンプは九州から関西まで使用されておりヒット商品となっていた。現在、高取焼は、直方、小石原、福岡の高取と飯倉で焼かれている。

注1) 鷹取城は標高 600mの山頂に築かれた城である。この城は 1046（永承元）年から城主が変遷している。黒田長政は 1601（慶長 6）年筑前の国守として入国すると、家老母里太兵衛友信（18,000 石）の居城とした。母里が同年嘉穂町の益富城に移ったために、手塚孫太夫展連（手塚氷雪）が在城した。手塚氷雪が宅間に開窯させている。1615（元和元）年一国一城令により、鷹取城は廃棄破却された[参考文献：廣崎篤夫（1999）の 215～218 頁より]。

注2) 小堀遠州[1579（天正 7）年～1647（正保 4）年]は近江小堀村出身で、備中松山藩主小堀新介正次の子である。1604（慶長 9）年父の死により、12,000 石を襲封する。のち近江小室藩主。1608（慶長 13）年従五位下遠江守に叙任。以後、作事奉行を多く歴任し、建築・造園の才を発揮して二条城、仙洞御所などを手がけた。1623（元和 9）年に伏見奉行となる。茶の湯は古田織部[1543（天文 12）年～1615（元和元）年]に学び、1636（寛永 13）年 5 月 21 日に品川御殿において將軍徳川家光に茶を献じ、その茶名が天下に知られた。遠州の茶風は「綺麗さび」といわれ、綺麗にして優美、洗練された文学趣味に彩られ、桂離宮の美に通じる点が多いといわれている。また、千利休[1522（大永 2）年～1591（天正 19）年]風のわび茶を基本としながら唐物を多用する書院の茶を加味した。遠州は 1628（寛永 5）年の茶会で筑前焼を使用している。この頃から高取焼に注目し始めているとのことである。八山親子が 1630（寛永 7）年に伏見奉行屋敷に出向き指導を求めている。このことから遠州好みの茶道具が創作可能となったことが、遠州が高取焼を茶会でコンスタントに使用したことに通じる。遠州茶会における高取焼の使用状況は参考文献の深谷信子（2009）の 521 頁を参照されたい。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名事典』新潮社，1995．746 頁．

三省堂編修所『コンサイス日本人名事典』三省堂，1999．523 頁．

注3) 白旗城は現在の飯塚市幸袋と二瀬の境界、白旗山の山頂が城址である。この山の伝承としての由来が二つある。一つ目の由来は藤原純友が反逆して失敗、筑前に逃れて来たとき、白旗を立てて勢威を示したので白旗山といわれている。また、もう一つの由来は鎮西八郎為朝が白旗を立てたので白旗山といわれている[参考文献：廣崎篤夫（1999）223 頁より]。

注4) ゼーゲルはドイツの陶工ゼーゲル（H. A. Seger:1839～1893 年）によって考案された高温測定具の一つ。摂氏 20～30 度おきに各階段の温度で溶解して曲がるように配合した種々の粘土製の三角錐を用いて測る。これを炉内に置けば、その溶解した錐の番号によって温度を知ることができる。

相賀徹夫編集『世界陶磁全集 7 江戸 (二)』小学館, 1989. 162～170 頁.

青柳種信『筑前國續風土記拾遺 上』文献出版, 1993. 70 頁.

青柳種信『筑前國續風土記拾遺 中』文献出版, 1993. 339 頁.

深谷信子『小堀遠州の茶会』柏書房, 2009. 520～534 頁.

福岡市教育委員会「筑前国福岡城三ノ丸 御鷹屋敷 (図録編)」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』, 第 59 集, 1990. 1～52 頁.

福岡市教育委員会「筑前国福岡城三ノ丸 御鷹屋敷」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』, 第 59 集, 1990. 1～16 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社, 1999. 鷹取山城: 215～218 頁. 白旗城: 223 頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房, 1987. 126～127 頁.

貝原益軒『筑前國續風土記』文献出版, 2001. 656～657 頁.

許斐友次郎「筑前の名陶須恵焼に就いて」『都久志』第五號, 文献出版. 15～20 頁.

永竹 威『陶器講座 第 3 卷 日本Ⅲ 江戸前期』雄山閣, 1971. 218～243 頁.

中里太郎右衛門『愛蔵版日本のやきもの 五 唐津 上野 高取 萩』講談社, 1989. 20～92 頁.

中山平次郎「高取焼最古の二窯址と其遺物」『考古學雜誌』第 5 卷第 4 號, 1914. 393～418 頁.

中山平次郎「筑前國嘉穂郡 白旗山麓の高取焼址」『考古學雜誌』第 5 卷第 10 號, 1915. 649～659 頁.

西日本文化協会編纂『福岡県史 文化資料編 筑前高取焼』福岡県, 1992. 1～258 頁.

西日本新聞社編『博学博多—ふくおか深発見—』西日本新聞社, 2007. 172～173 頁.

奥村 武「筑前国黒田藩窯高取焼窯の移動と変遷について」『大塚薬報』No.322. 発行日不明. 27～31 頁.

奥村 武「高取焼と奥村次八郎」『荒津文化』第 2 号, 1972. 1～10 頁.

紫村一重編集『直方市史 資料編』直方市役所, 1983. 528～537 頁.

須恵町誌編集委員会『須恵町誌』須恵町役場, 1983.

高鶴 元『日本陶磁体系 15 上野 高取 八代 小代』平凡社, 1990 年. 128～157 頁.

陶器全集刊行會編纂『陶器大辭典 三卷 さ—ち』五月書房, 1980. 482～485 頁.

柳 猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社, 1995. 136～144 頁.

黒田孝高（如水）〔くろだ よしたか（じょすい）：1546（天文 15）年～1604（慶長 9）年〕

孝高は播磨姫路城主小寺職高^{こでらもとたか}の子で、入道して如水となった。1575（天正 3）年頃織田信長に属し、1577（天正 5）年西国管領として播磨に進駐した豊臣秀吉に従い、1582（天正 10）年備中高松城の水攻めの方策を提案、また毛利氏との講和にあたるなど、秀吉の軍師的役割を務めながら中国平定に貢献した。1587（天正 15）年秀吉の九州平定が成ると、豊前中津城主となった。1589（天正 17）年に子である黒田長政^{はう}に封（領地を与えて大名にすること）譲り隠居した。このとき剃髪して如水となる。関ヶ原の戦いでは東軍に属し、九州各地で戦った。また、朝鮮遠征にも従い蔚山^{ウルサン}の危機を救っている。茶道のたしなみ深く、洗礼名はドン・シメオンと称した。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名事典』新潮社，1995．665 頁．

三省堂編修所『コンサイス日本人人名事典』三省堂，1999．469 頁．

井上精三『博多郷土史事典』葦書房，1987．70 頁．

黒田長政〔くろだ ながまさ：1568（永禄 11）年～1623（元和 9）年〕

長政は播磨姫路生まれで、黒田孝高の子である。1577（天正 5）年人質として織田信長の下に赴き、豊臣秀吉に預けられる。1582（天正 10）年秀吉の中国平定に出陣し、また賤ヶ岳^{しずがたけ}、小牧、九州平定の戦いに軍功を上げていき、1589（天正 17）年に父である孝高より豊前中津藩 11,000 石（のち 18 万石）を譲り受けた。文禄・慶長の役に際して肥前国名護屋城構築の奉行となり、さらに当時の朝鮮に渡海し活躍した。また、関ヶ原の戦いでは東軍の徳川家康に属して勝利に貢献している。その功により、筑前国 52 万 3,000 石を封ぜられ、1600（慶長 5）年名島城に入り、1601（慶長 6）年に福崎の地に築城し、地名を福岡と改め、江戸 270 年間の筑前政治の基礎を築いている。キリシタン大名で洗礼名はダミアンである。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名事典』新潮社，1995．664 頁．

三省堂編修所『コンサイス日本人人名事典』三省堂，1999．468 頁．

井上精三『博多郷土史事典』葦書房，1987．68 頁．

母里太兵衛〔もり たへい：1556（弘治 2）年～1615（元和元）年〕

太兵衛は播州生まれ、幼いときから黒田家に仕え武功をたてる。当時の朝鮮遠征のとき 7 尺 5 寸 2 分の大身の槍で戦っている。この槍は日本無比の槍として秀吉秘蔵のものを、福島正則（幼児から豊臣秀吉に仕えた武将で、賤ヶ岳の戦いで 7 本槍の筆頭とされる功績をあげている。）が勲功の賞として頂戴し、太兵衛が強いられた大盃を呑み干すのを条件に正

則から手に入れたもの。1600（慶長 5）年に黒田長政に従って筑前に入り領地 18,000 石を賜り、名を但馬と改めている。鷹取城主となり、のち益富城主になり 1615（元和元）年の一国一城令まで続いた。1606（慶長 11）年江戸城天守の石垣修造に功勞があり徳川秀忠（徳川二代将軍）から太刀を拝領している。そのときの書きものに毛利太兵衛とあったので、以後母里を毛利としている。その後、大槍（日本号：室町時代に作られ総長 321.5cm、穂先 79.2cm、重量 2,800g）は母里家から頭山満（玄洋社）、大野仁平（博多の侠客）、安川敬一郎（石炭王）、黒田家とわたり、黒田家から福岡市へ寄贈され、福岡市博物館で目にできるとのことである。

井上精三『博多郷土史事典』葦書房，1987．281～282 頁．

西日本新聞社編『博学博多一ふくおか深発見』西日本新聞社，2007．32～33 頁．

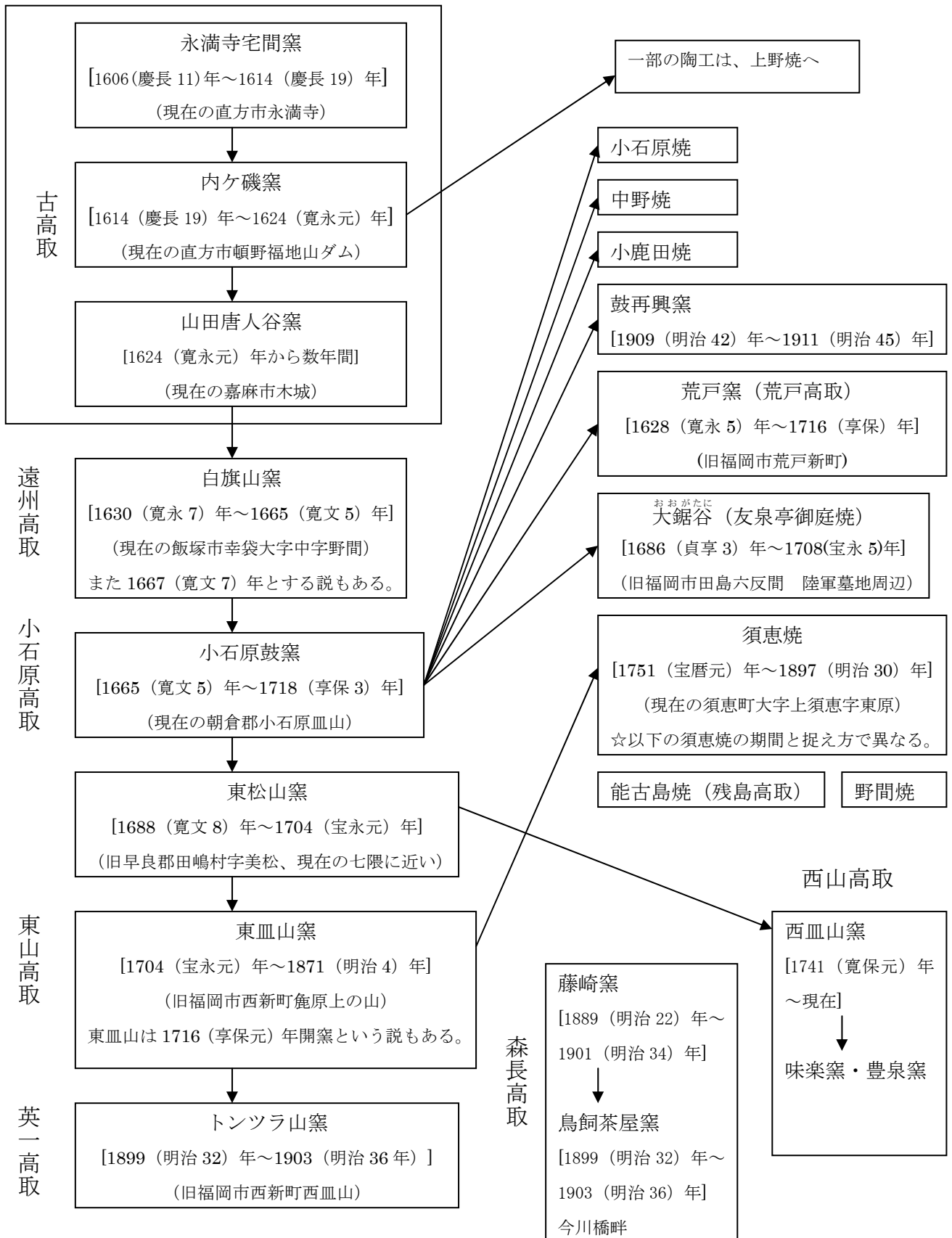
加藤清正[かとう きよまさ：1562（永禄 5）年～1611（慶長 16）年]

清正は尾張中村生まれ、豊臣秀吉に仕え、賤ヶ岳の戦いの 7 本槍の一人である。小牧の戦い、九州平定などに従軍している。1588（天正 16）年肥後半国 19 万 5,000 石の熊本城主となる。文禄の役では先鋒として渡海し、当時の朝鮮の二王子を捕え、慶長の役でも蔚山城を死守するなど武名をあげている。関ヶ原の戦いでは東軍に属し、小西行長の宇土城、立花宗茂の柳川城を攻め、徳川家康から戦後肥後一国 51 万 5,000 石を領している。武闘派の大名として知られ、その築城技術は有名である。

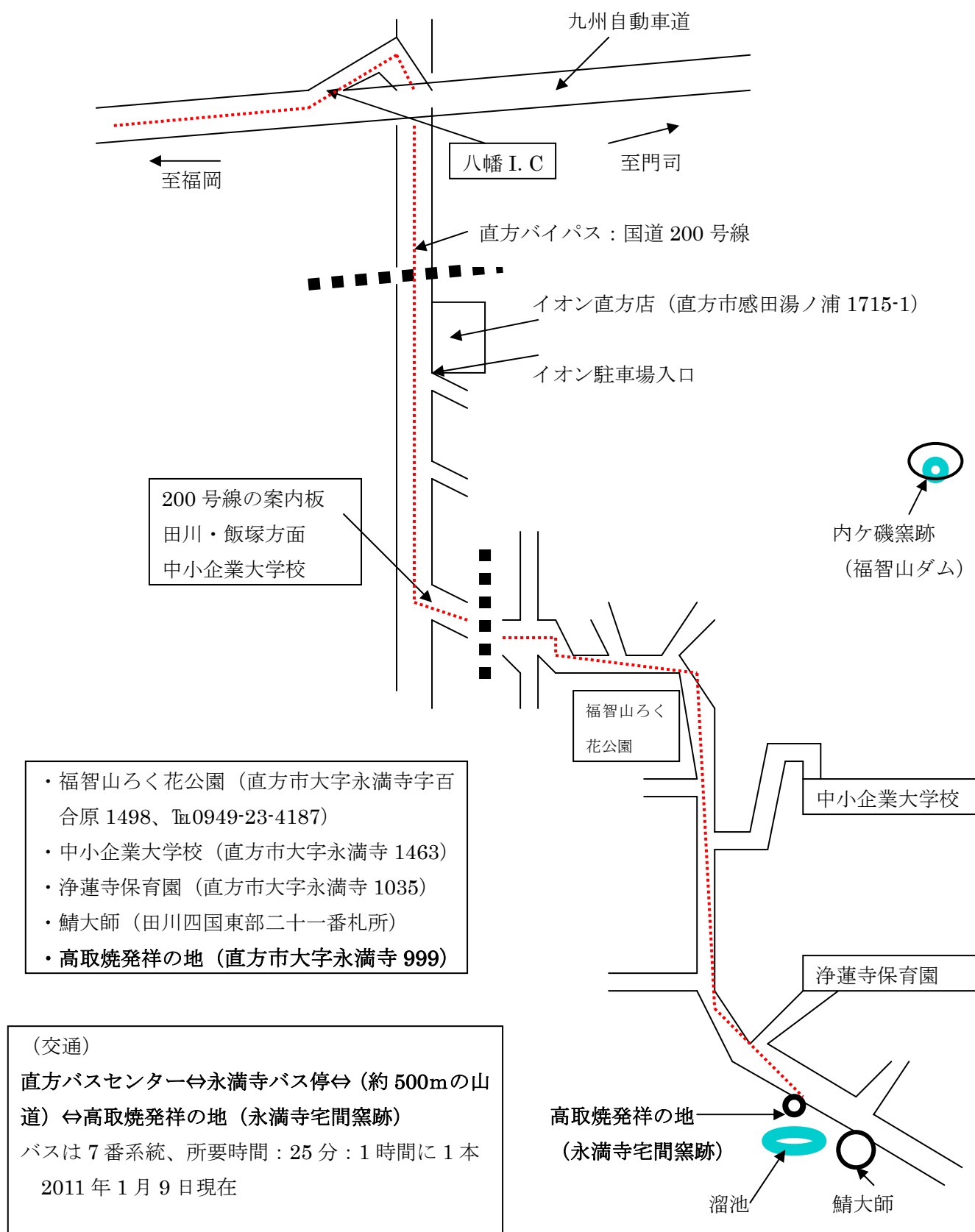
新潮社辞典編集部『新潮日本人名事典』新潮社，1995．477 頁．

三省堂編修所『コンサイス日本人人名事典』三省堂，1999．339 頁．

高取焼窯変遷図

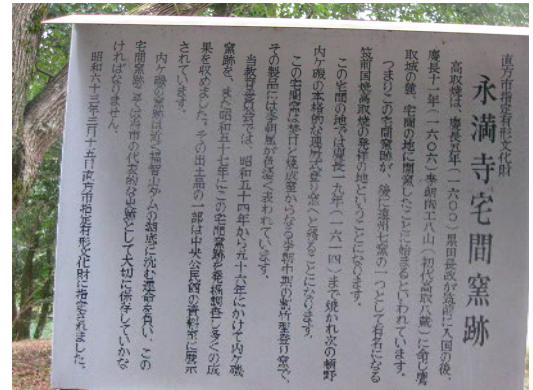


高取焼（直方市大字永満寺 999）





高取焼発祥地の碑



高取焼発祥地の説明板



高取焼発祥地の碑



鯖大師

筑前の磁器は、筑前国續風土記によれば、1682（天和2）年上座郡小石原村の南にある中野において肥前松浦郡伊満里の陶工がきて伝えたとの記述がある^{注5）}。ここで生産されたのが中野焼であり、官業で明代の青華磁器の模造を作り成果を挙げていたが、実情にあわなくなりその後敗滅したといわれている。これが筑前の磁器の始まりといわれている。その後、中野における磁器の焼成は永くは続かず陶器へ転換された。

須恵焼は1764（宝暦14）年肥前磁器の影響のもとで開窯し、1902（明治35）年の閉窯までの約140年間継続していた。そのルーツは福岡藩の寺社奉行に所属する進藤安平が三川内から陶工を招き陶業を個人的に開始したことに発している。その後、福岡藩の御用窯となり、須恵皿山役所が設けられている。

須恵焼の初期の製品は肥前磁器の影響が強く、1781（天明元）年～1788（天明8）年の製品はとくにその影響が強く現れているとのことである。幕末期の製品は、極めて精緻なもので、肥前・瀬戸・明・清などの影響を受けた製品となっている。また、1870（明治3）年の廃藩置県により御用窯は中止され民営となったが、1887（明治20）年前後に焼かれた金錆^{きんさび}染付^{そめつけ}製品は須恵焼独特のもので、国内に類例をみないものである。藩用に焼かれた製品は江戸をはじめ各地の領主などに、筑前焼もしくは須恵焼として贈答されている。窯跡は、登り窯で長さ約100m、幅は広いところで約10mの本窯跡と、その上に一部重なる形で、

明治時代の新窯跡があり、陶器所跡の横に小さな試験窯跡が残っている^{注6)}。

東皿山の陶工は藩から扶持の支給をうけ、藩の体制のなかに組み入れられていたが、西皿山や須恵焼の陶工は郡民であり、工の身分でもあり、若干の田畠をもっていた。また、西皿山や須恵焼は藩が経営する売買窯であった^{注7)}。

第11代藩主黒田長濤は中洲精錬所を利用して原石の分析をおこない、品位の向上に努力している。姪浜で製陶薬である呉須（コバルト主成分）を発見し、筑前国産の呉須の使用が行われたと推測できる^{注8)}。

注5) わが国において、徳川中期以降、貨幣経済・商品経済の発達にともない、農村の疲弊が進み年貢米の増徴が期待できない状況となった。各藩は新たな財政収入の財源を商工業者からの徴収システムを整えた。また、各藩領内の特産物に目をつけ、その増産を奨励するとともに、生産や流通の過程で中間利潤を吸収するために専売仕法（方法）を実施している。福岡藩の専売は^{はぜろう たきいし}燻臘、焚石、鶏卵、陶磁器および皮革で、藩による経営という^{しくみ}仕組によって市場や特定商人に販売されていた。また、福岡藩では1658（万治元）年～1673（寛文12）年にかけて、倭約令とともに、植林、築港、商船建造、新田開墾、塩田開発および運河開削などの政策を実行していつている。

注6) 須恵町立歴史民俗資料館ブログより

注7) 須恵町誌編集委員会『須恵町誌』須恵町役場，1983．1193頁．

注8) 『須恵町誌』1175～1176頁．

田原養全（たはら ようぜん：田原眼科系図では5, 7, 10, 12, 15代が田原養全）

田原眼科の初代は田原弥吉、2代順貞から16代龍彦までの系図（分家を除く）のなかで、5, 7, 10, 12, 15代が養全である。11代養朴[1837（天保8）年～1911（明治44）年]は1862（文久2）年に長崎精得館で蘭医ボードウィン[1820（文政3）年～1885（明治18）年：オランダ出身の在日医師で、長崎養生所の教頭となりその間、東京、大阪、長崎で蘭医学を広め、また養生所の基礎科学教育の充実に努めている。とくに、眼科に優れており、日本に初めて検眼鏡を導入。現在の大田胃散はボードウィンが日本に持ってきた健胃剤の処方が伝播され、独自の改良を経たもの]に教えを受けて得ると一般に言われている。12代養全[1850（嘉永3）年～1890（明治23）年]は藩命によって1866（慶応2）年に17歳のとき長

崎に赴きボードインに師事、さらに明治に入ってから東京・大阪に数年遊学し西洋医学を研鑽し、家法を改良し田原眼科繁栄のピークを築いたとされている。13 代養朴[1856（安政 3）年～1896（明治 29）年]は福岡病院に学び、ついで大阪府立医学校を 1879（明治 12）年に卒業して家業を継いだ、さらに上京して井上達也[1848（嘉永元）年～1895（明治 28）年：日本で最初の眼科専門誌「井上眼科研究会報告」を創刊、東京医学校で日本初の眼科学教授で『白内障手術篇』がある^{注9)}]の門に入って技を磨いている。14 代養柏[1868（明治元）年～1952（昭和 27）年]は 1883（明治 18）年に上京して独逸（ドイツ）協会[ドイツ文化の移植を目的に 1883 年に設立、その後東京大学獨法科へ移管され、廃止された。協会自体は旧制中学校として存続し、とくに一高三部（医科）進学者が多かったとのことである]に入学したが、中退して長崎医専に入学、1893（明治 26）年に東大眼科の選科に入って、その後家業を継いでいる。15 代養全[1882（明治 15）年～1946（昭和 21）年]は明治 42 年京大医学部卒業後、九大眼科に入り、その後家業を継いでいる^{注10)}。

須恵・上須恵では昭和 20 年代まで製薬・売薬業が盛んに行われていた。この時代の目薬は紅絹（紅色で無地の絹布）に包んで貝に入ったもので「正明膏」と称せられた。須恵・上須恵の製薬・売薬は江戸時代に始まったものであり、高場順世を源としている。高場順世はもともと寺沢志摩守領内の天草出身の高場進士兵衛と名乗る武士であった。高場はもともとから眼科の心得があったが粕屋郡内橋村（現粕屋郡粕屋町）で初めて眼科医となり、順世と名乗っている。1817（文化 14）年福岡藩の藩医は内科医（本）が 56 人、小児科医（小児）が 16 人、外科医（外）が 20 人、鍼灸医（針）が 15 人、歯科医（口：口中医）が 3 人、眼科医（眼）が 5 人であった。この 5 人は田原養全、岡正安、中村正宅、山路東英および白水養禎で、田原、岡および中村は順世の弟子で、白水は田原家で医術を学んでおり、眼科のうち 4 家までが順世とのかかわりがあることになっている。また、江戸中期以降田原眼科は尾張の馬島、江戸の土生、信州の竹内とならんで日本四大眼科であった。そのようなことから、須恵村（高場家＝岡家）や上須恵村（田原家）の高名な眼科医がいたので全国から治療を求める人が民宿（眼療宿場）にとどまり、治療を受けている。上須恵村で現在分かっているだけでも 59 軒の眼療宿場があり、1834（天保 5）年 1 月～12 月の患者の出身地は薩摩から蝦夷地までの合計 923 人、1849（嘉永 2）年 1 月～12 月も同様の出身者（もちろん各地域の人数は異なる）で合計 1012 人との記録がある^{注11)}。そこで行われていた治療は青目（緑内障）で、田原眼科各代では白内障施術を得意としていたとのことである。日田咸宜園の広瀬淡窓も恩師亀井南冥に会いに来た帰りに治療に立ち寄っている。

ところで、田原眼科の祖は豊後大友家滅亡のときに逃れて、明暦年間（1655～58 年）に須恵町上須恵に移住してきたとのことである。

なお、明治時代において、田原養全の名は須恵焼の株式組織がなされたときにみられる^{注12)}。

注 9）デジタル版人名辞典+Plus の解説（出典は講談社 2009）による。

注 10) 田原龍彦「筑前田原流眼科」より。なお、田原龍彦氏は、『須恵町誌』によれば、1983（昭和 58）年当時において田原家 16 代であり、福岡市東区香椎で開業とのことであった。

『須恵町誌』999 頁。1009～1004 頁。

注 11) 『須恵町誌』999 頁。

注 12) 『須恵町誌』1148 頁。1181 頁。

高場乱[たかば おさむ：1831（天保 2）年～1891（明治 24）年]

高場乱は当時の粕屋郡須恵の眼科医で、父親（高場正山元近）のあとを継ぎ評判を得ていた。医のかたわら亀井昭陽[かめい しょうよう：1773（安永 2）年～1836（天保 7）年、儒学者で亀井南冥の長男で頼山陽と親交あり]に学び、人参畑（現福岡市博多区博多駅前 4 丁目）に興志塾（グリーンビル前に興志塾の碑）を開き、玄洋社の箱田六輔、頭山満および進藤喜平太を指導している。現在、須恵町の宝満宮の隣に岡医院宅があるが、高場乱の宅跡である。『須恵町誌』には田原家と同様に詳細な記述がなされている。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名事典』新潮社，1995．510 頁。

三省堂編修所『コンサイス日本人人名事典』三省堂，1999．361 頁。

町立歴史民俗資料館

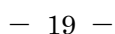
須恵町立歴史民俗資料館は 1973（昭和 48）年に開館し、町立としては全国的に珍しい歴史民俗資料館である。最澄が開祖した建正寺、中世の高鳥居城址、近代の石炭、須恵・上須恵の目薬と医療器具、須恵器、須恵焼、戦前・戦後の生活民具、郷土玩具、昭和の玩具などが展示され、資料館の外には C11 型 S L があり石炭産業との関連で展示してある。どれも貴重な展示品であるが、とくに須恵焼の展示をご覧いただきたい。

町立美術センター久我記念館

久我記念館は 1979（昭和 54）年に創設されている。当初、久我記念館は久我五千男氏の個人美術館として出発した。詳細は当記念館のパンフレットをご覧いただきたいが、2 階には筑前の名陶（磁器）である「須恵焼」約 100 点と館蔵美術資料を常時展示されている^{注 13)}。また、図録等が販売されており、筑前磁器を研究する上において貴重な資料となるであろう。

注 13) 須恵町立久我記念館パンフレットより

町立美術センター久我記念館（福岡県糟屋郡須恵町須恵 77-1）





田原養全宅跡



田原養全宅跡



田原養全宅跡の井戸跡



薬師堂



福岡藩磁器御用窯跡



福岡藩磁器御用窯跡



福岡藩磁器御用窯跡の裏が須恵器跡



皿山公園



皿山公園



歴史民俗資料館



歴史民俗資料館



高場乱の宅跡（現在、岡医院宅）



宝満宮にある相撲の土俵（高場乱の宅跡の南側）



宝満宮にある殿様榎の説明板

野間焼

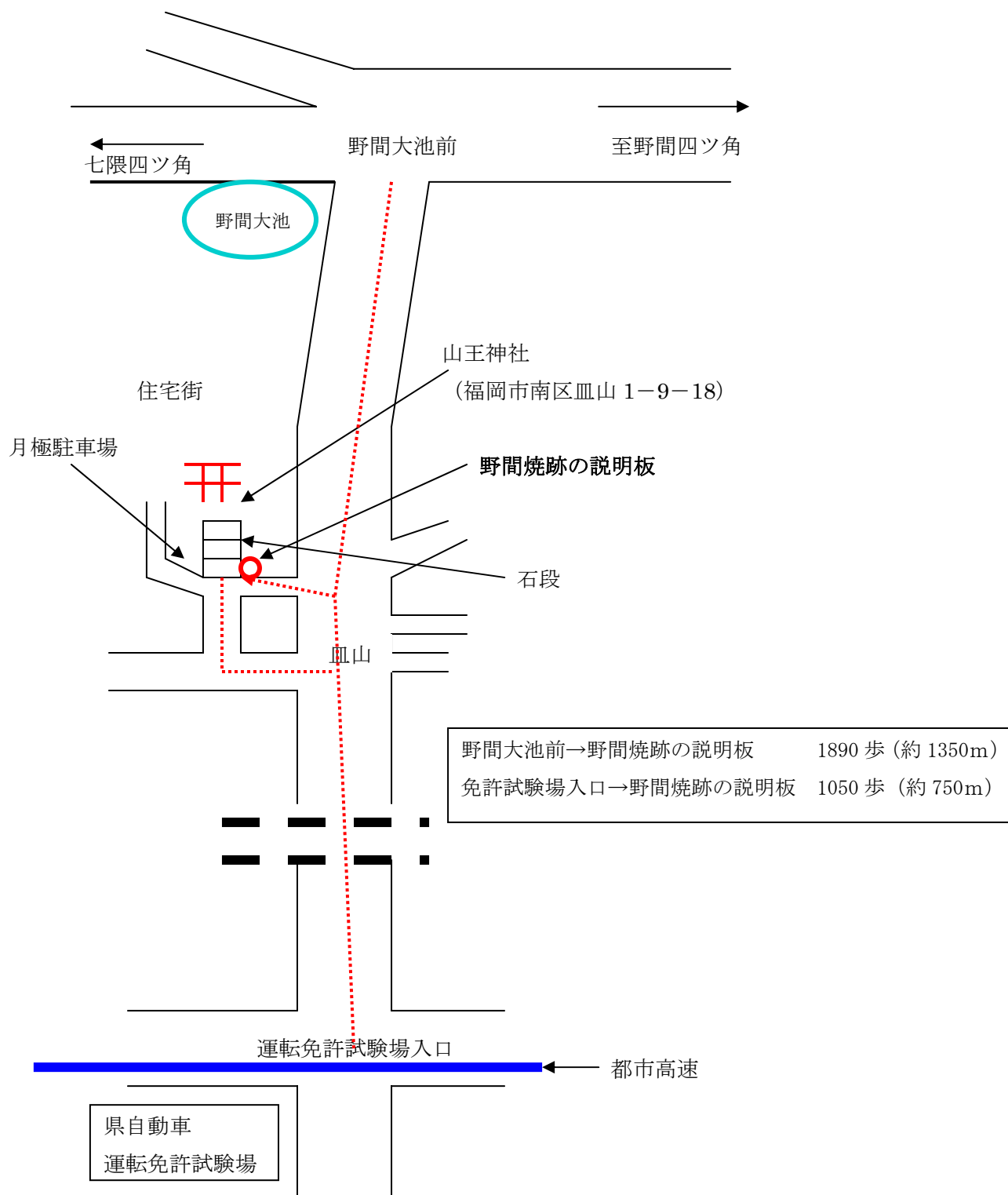
野間焼は、1855（安政 2）年に那珂郡野間村柳河内（現在の福岡市南区皿山）に窯が築かれ、黒田藩の御用窯として京都の陶工佐々木与三郎を招いて作らせたのが始まりといわれている。11 代藩主黒田長濇によって復興された御用窯須恵焼は 1871（明治 4）年の廃藩置県で廃止された。

御用窯廃止以降、京都から須恵焼窯にやってくる陶工澤田舜山（さわだしゆんざん）が一門とともに野間に移り窯を開いて、野間焼の名声を高めている。野間焼の最盛期は 1937（昭和 12）年ごろで、50 軒ほどの集落のうち窯元が 16,6 軒あり、約 60 人の職人がいたとのことであった。野間焼は伝承によれば行平（ゆきひら）[注口（つぎぐち）がついた平鍋で雪平鍋の略]、駄売茶瓶、焙烙（ほうろく）、火消壺、伊賀土瓶（薬師瓶）、羽釜、酒器、土鍋、植木鉢、練炭を置く台、射的の的、七輪の網など日用品を生産していたとのことであった。羽釜と酒器はそれぞれ澤田製陶所と澤田舜山の製作のものがある。福岡市南区西花畑公民館に展示品の写真が下記のホームページに掲載されています。

現在、野間焼窯は存在していないが、福岡市南区皿山 1 丁目 9-18 にある山王神社一帯が窯場であったといわれている。

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/minamiku/t-shien/charm-event/nisihanahata/nisihanahata...>

野間焼跡の説明板（福岡市南区皿山 1 丁目 9-18）





山王神社にある野間焼説明板



山王神社

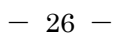


山王神社の境内でこの付近が野間焼跡



山王神社の絵馬

早田古墳（福岡市西区能古 1601-39 付近）



北浦城址：50m位の高さで、海岸道路（通称：桜道）からは石段があるが施錠がされて登ることはできない。そこで、能古夢コーヒー園の裏側から 100 m平地と坂道（かなり急勾配）を登ると頂上はかなり広い（平地で 4～500 坪）。この頂上が城址かどうか分からないが、現在、畑になっている。観音堂から頂上までは坂道でみかん畑、竹藪、となっている。『筑前国続風土記拾遺』では「城崎古城」とされ、藤原純友の家臣伊賀寿太郎の築城とあり、『早良郡志』には山上憶良が築造したとある。



北浦城址



北浦城址

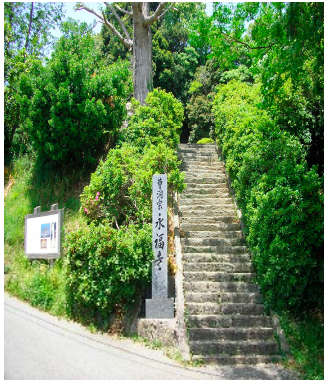
コーヒー園温室栽培：コーヒーの樹（ブラジル・サントス）、パパイヤ、バナナ、マンゴー、ハイビスカス、とっくりヤシ、南国・熱帯の花などが温室栽培（約 1000 坪）されている。

カイワレ大根発祥の地（砂地でカイワレ大根を栽培していたとのことで、からみがあった。）現在は、ピーナッツカイワレを特許とり栽培しているとのことであった。ともに栽培者は前田龍郎氏である。温室（ビニールハウス）栽培。



温室栽培の珈琲豆の木

永福寺：禅寺で、とくに戦後すぐに遭難した 28 人の犠牲者を出した能古渡海船の慰霊碑、二八観音などがある。



永福寺（曹洞宗）

白鬚神社：能古島の産土神で、奈良時代の創建、祭神は住吉大神、神功皇后など。



白鬚神社

能古小・中学校の裏のアイランドパークへの道路から福岡タワー方面を遠望



福岡タワー遠望

能古焼窯跡：能古焼窯は江戸時代中期（18 世紀後半）に開窯、約 20 年間で閉窯となったとのことで、説明板には有田焼系の磁器、高取焼系の陶器の両方を焼成していた古窯であるとされている。能古博物館には、出土遺物として完全な陶磁器が 2 点、後の多くは破片が展示されている。特徴は底に四角の渦巻きの絵付けがなされている。能古焼は福岡藩の御用窯との説もあるが、博物館の 2 人の職員の方々の話では、その説はいまだに謎であるとのことであった。出土遺物はこの窯跡と能古島の元庄屋屋敷の改築の際のものであるとのことであった。博物館には図録や資料等は作成されないくらいの情報でしかなく、博物館のパンフレットに「まぼろしの能古焼：前田家伝世品」とする能古焼の写真が掲載されている。



能古焼窯跡



能古焼窯跡



能古焼窯跡

孔子聖廟と楷の木：能古島の孔子聖廟は多久聖廟、次いで足利学校からの篤志を得て分苗された孫苗で、現在（平成8年）、7年と4年それぞれの樹がある。

楷の樹は孔子死後の翌年、孔子十哲とされる弟子の子貢が初めて孔子墓域に移植。これを1915（大正4）年に農商務省林業試験場長の白沢保美博士が中国山東省曲阜の孔子廟を視察、そのときその種子を持ち帰り育成した。日本各地の孔子廟に分苗されている。

（楷ノ樹の説明板より）



孔子聖廟



楷ノ樹(2本のうちの1本)



楷ノ樹の説明板

能古博物館：博物館には亀井南冥をはじめとする筑前亀井学に関する資料の展示、能古焼窯で焼成された完全な陶磁器が 2 点と破片の展示、またトチン、塙（せん）、有田十字のハマ、ハマ、サヤ及び天秤積といった窯で焼くときに陶磁器がくっつかないようにする道具が展示、筑前五カ浦廻船に関する文献資料および千石船の模型、荷札、分銅、和磁石、朱塗状箱、船簞笥、酒盃、振り袖などの展示、牛島竜介氏（ヨットで太平洋を往復、また世界 1 周した人）に関する資料の展示、長谷川町子氏（サザエさん）に関する資料の展示、海外引揚げの記憶に関する資料の展示がなされている。

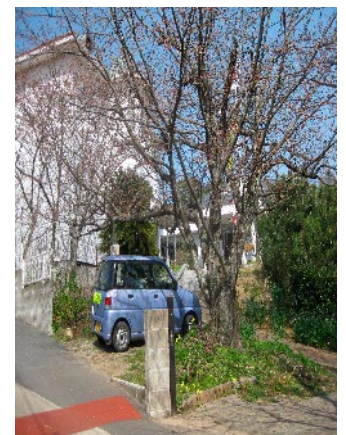
弁財船の模型が展示してあるが、実物は千石積、積載量 150 トンというものであり、博物館の方の話では能古島の廻船の船主は対岸の姪浜の石橋家ということであった。



能古博物館



能古博物館



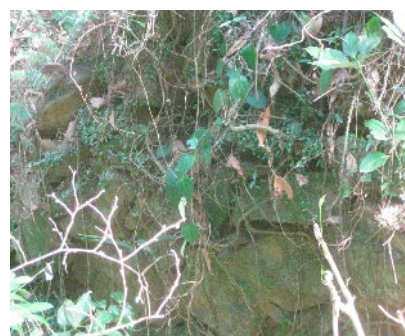
能古博物館

鹿垣：江戸時代に能古島は福岡藩の鹿の猟場で最盛期には約 600 頭の鹿がいたということである。鹿垣が築かれ鹿が田畑を荒らさないよう東西約 2km にわたり石垣を築いたということであった。鹿は昭和 20 年頃に全滅したとのことである。

（「能古島散策地図」のパンフレットより）



鹿垣説明板



鹿垣



鹿垣

早田古墳：7世紀頃に造られた直径8m前後の円墳で、この場所に2基存在しているとのことである。「能古島散策地図」のパンフレットには写真が撮られているが、実際に行ってみると雑木林の中に竹林が侵食しており、どれが古墳か判別できなかった。



早田古墳説明板



早田古墳入口



早田古墳周辺

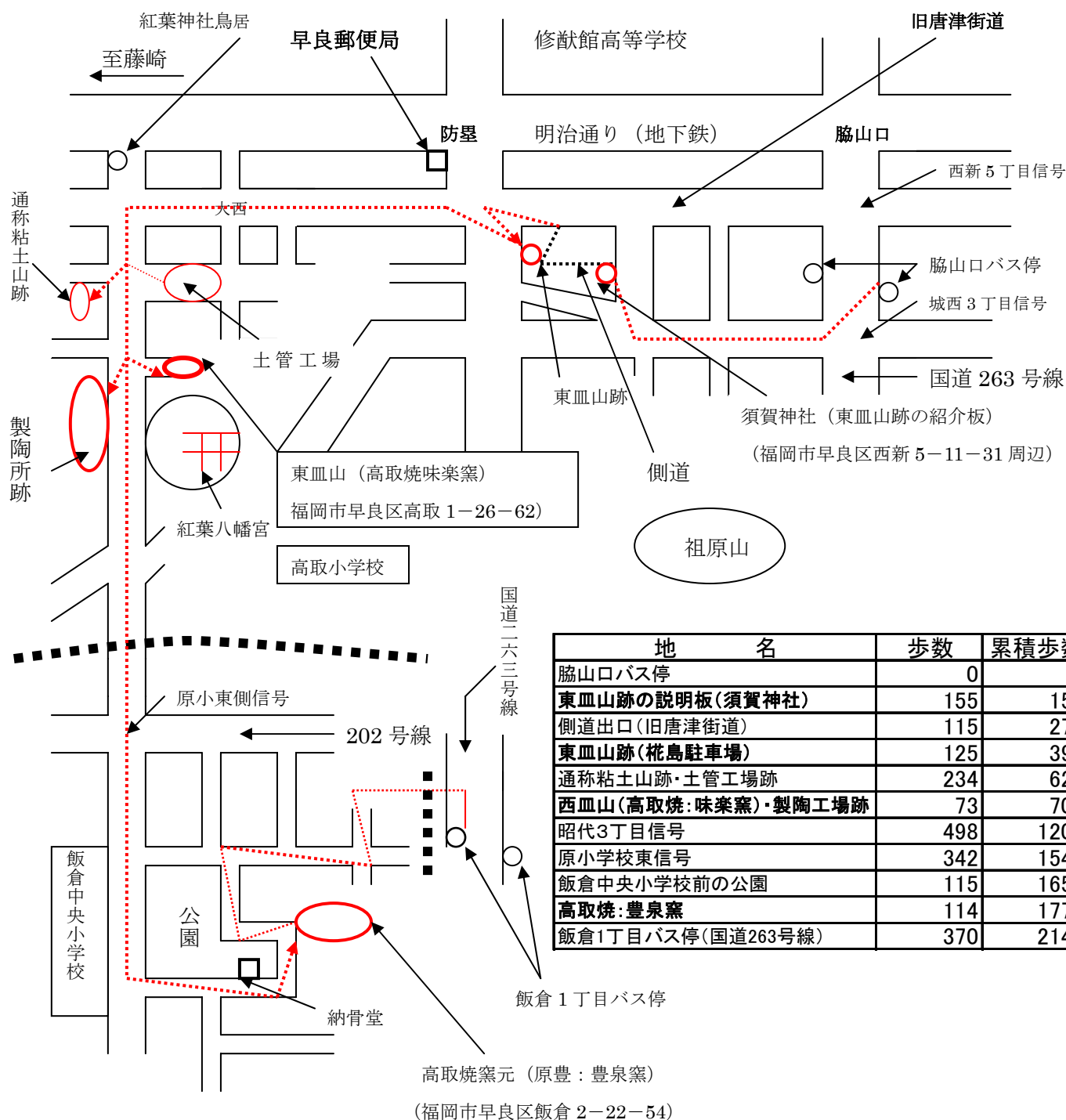
現在の東皿山跡と西皿山跡の一部

東皿山（福岡市早良区西新 5-11-31 周辺）

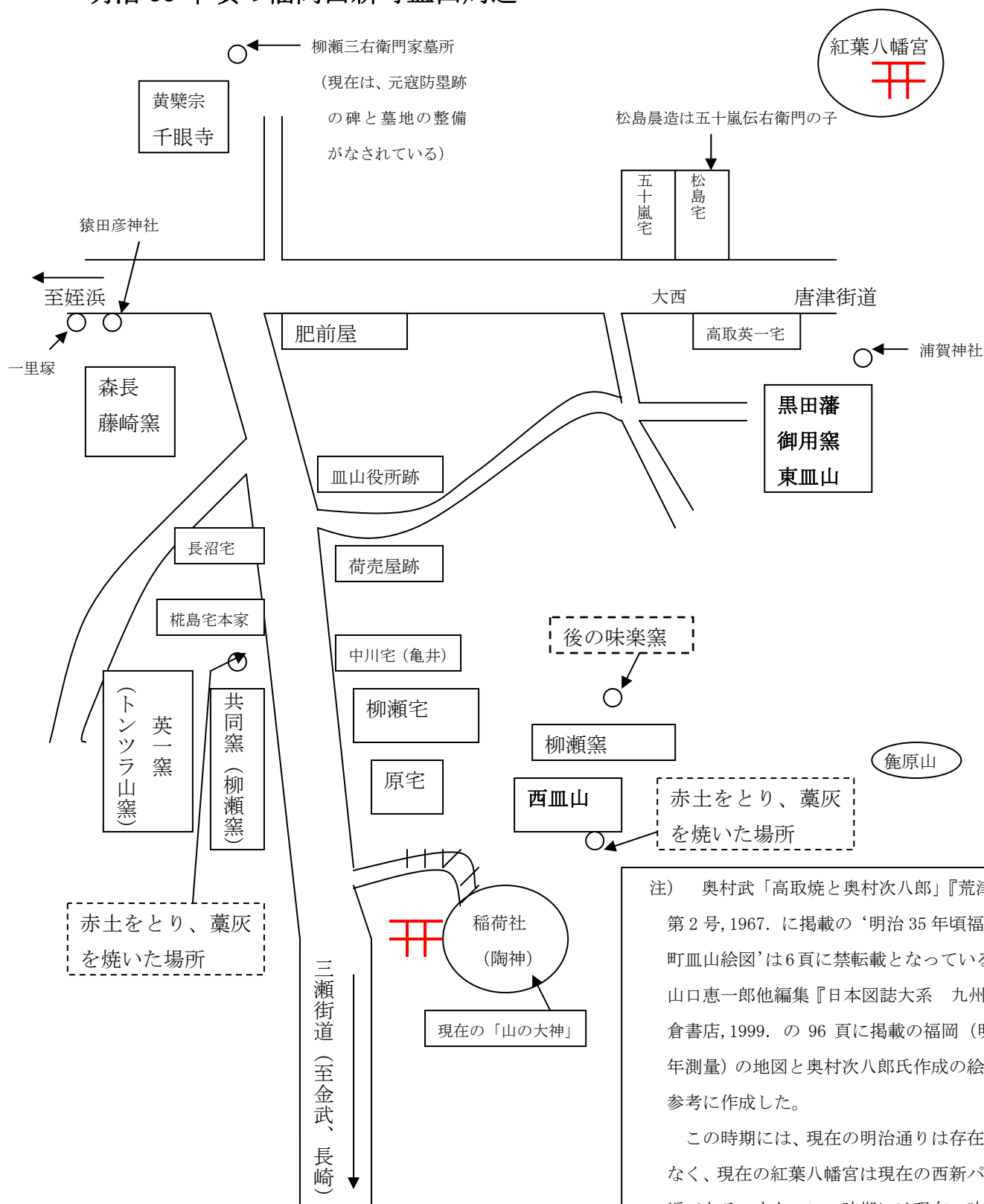
西皿山：高取焼味楽窯（福岡市早良区高取 1-26-62）

西皿山：旧製陶所跡（福岡市早良区高取 2-5-4 周辺）

西皿山：高取焼豊泉窯（福岡市早良区 2-22-54）



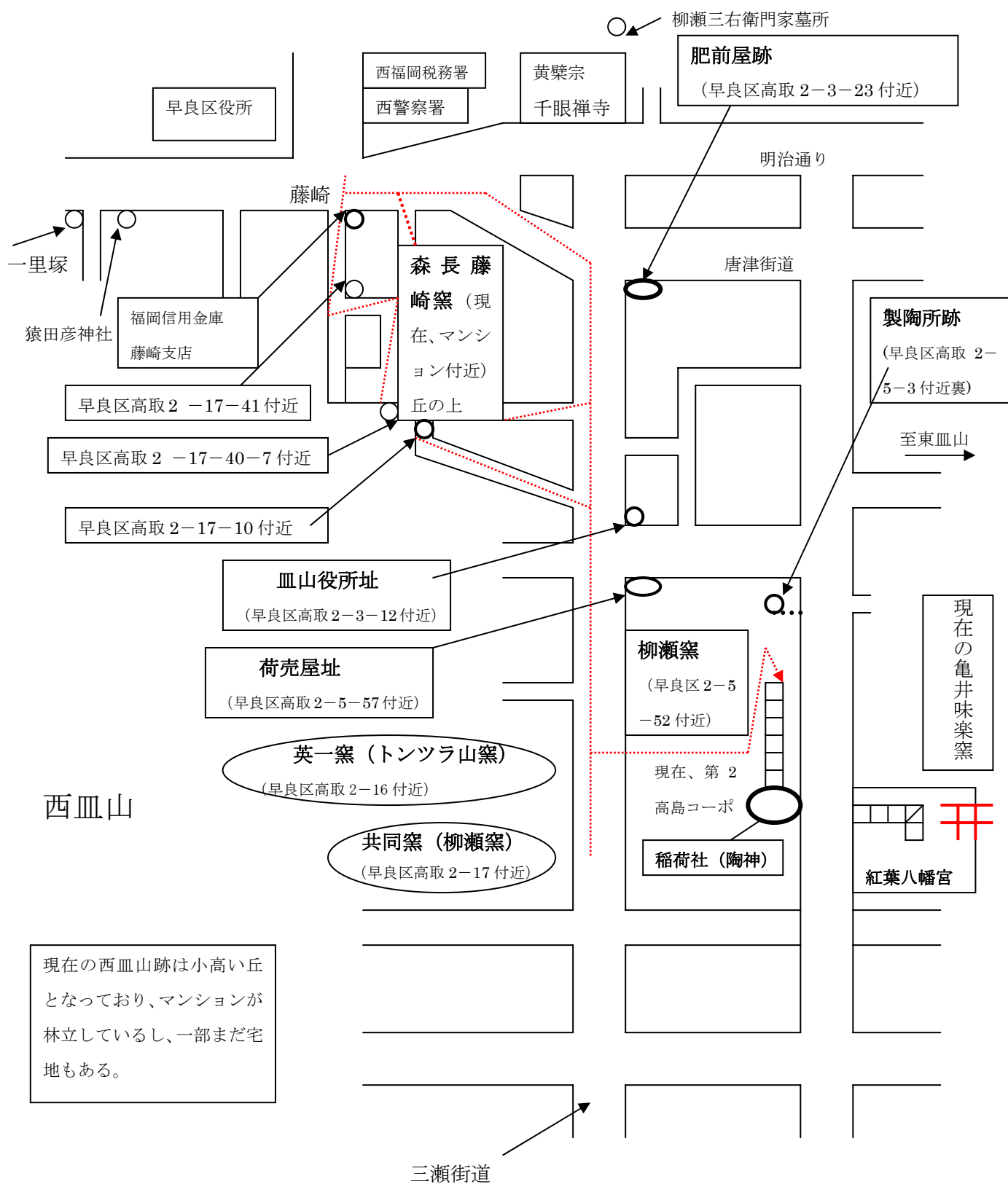
明治 33 年頃の福岡西新町皿山周辺^{注)}

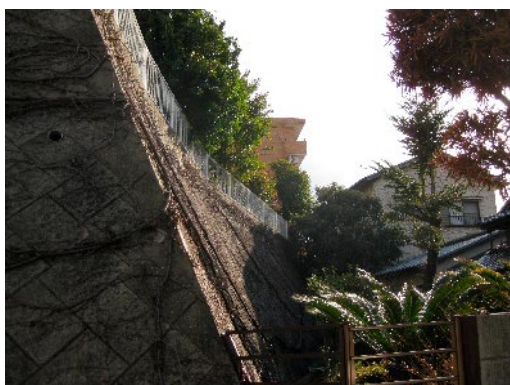


注) 奥村武「高取焼と奥村次八郎」『荒津文化』第 2 号, 1967. に掲載の「明治 35 年頃福岡西新町皿山絵図」は 6 頁に禁転載となっているので、山口恵一郎他編集『日本図誌大系 九州 I』朝倉書店, 1999. の 96 頁に掲載の福岡 (明治 33 年測量) の地図と奥村次八郎氏作成の絵図等を参考に作成した。

この時期には、現在の明治通りは存在していません。現在の紅葉八幡宮は現在の西新パレス付近である。また、この時期には現在の味楽窯や紅葉八幡宮前の道路も存在していません。

平成 23 年の地図に明治 33 年頃の福岡西新町皿山周辺を重ね合わせた図





森長藤崎窯跡

(早良区高取 2-17-40-7 付近)



森長藤崎窯跡

(早良区高取 2-17-41 付近)



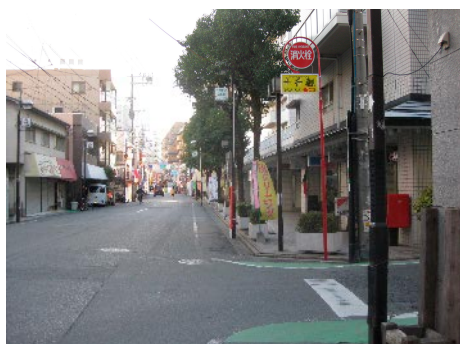
森長藤崎窯跡

(高取 2-17-10 付近)



肥前屋跡

(高取 2-3-23 付近)



肥前屋跡

(高取 2-3-23 付近)



皿山役所跡(左側)と荷売屋跡(右側)

(高取 2-3-12 と高取 2-5-57)



英一窯跡（奥）と共同窯跡〔（柳瀬窯）手前〕
（高取 2-16 付近と高取 2-17 付近）



柳瀬窯跡
（高取 2-5-52 付近：左上）



稲荷社〔（陶神）：山の大神〕
（高取 2-5 付近）



稲荷社〔（陶神）：山の大神〕
（高取 2-5 付近）



大悲山 千眼禅寺（黄檗宗）
（早良区百道 1-3-6）



製陶所跡
（高取 2-5-3 付近裏）



製陶所跡
(高取 2-5-3 付近裏)



製陶所跡
(高取 2-5-3 付近裏)



製陶所跡
(高取 2-5-3 付近裏)



旧家
(高取 2-5-4、この北側小道裏に製陶品)



製陶所跡
(高取 2-5-3 付近裏)

2. 元寇の歴史とその周辺地域の史跡について

博多の町は、刀伊の入寇[といのにゅうこう：1019（寛仁 3）年に満州を中心に分布した女真族（満州民族）と見られる海賊船団が壱岐・対馬を襲い、その後筑前に侵攻した事件]、元寇[げんこう：鎌倉時代中期にモンゴル帝国（元）およびその服属政権であった高麗によって二度にわたり日本侵攻がおこなわれたことを元寇といい、一度目を文永の役[ぶんえいのえき：1274（文永 11）年]、二度目を弘安の役[こうあんのえき：1281（弘安 4）年]という通算 3 回の外国からの侵攻を受けた。博多の町だけでなく筑前には元寇に関する遺構等が多く残っている。

文永の役では元・高麗連合軍（非戦闘員を含むと総勢 40,000 人、うち高麗軍は 8,000 人）が壱岐・対馬を制圧し、その後平戸、能古および鷹島の松浦党の基地を壊滅させている。日本側は少弐氏や大友氏を始め臼杵、戸次、松浦党、菊池、原田など集結したとのことである。博多湾西部から上陸した元軍の兵は麓原および別府に陣を構え、百地原から上陸した高麗軍は松浦党や原田一族を打ち破り赤坂に進軍したが、菊池武房[きくち たけふさ：1245（寛元 3）～1285（弘安 8）年]の菊池軍に打ち負かされた。白石通泰（生没年未詳：肥前御家人）らの救援を得ながら、竹崎李長[たけざき すえなが：1246（寛元 4）年～？年：肥後の御家人で、1274（文永 11 年）元軍襲来に対し、沿岸の防塁で戦って功を立て、1275（建治元）年鎌倉に赴き戦功を述べ海東郷（現、宇城市小川町）地頭職宛行われた。1282（弘安 4）年元軍再襲来の折には敵船に乗り込み活躍し、上陸を防いだ。「蒙古襲来絵詞」にこの活躍が描かれている。この絵詞は戦いを子孫に伝えるために作らせたものといわれている]が鳥飼潟から麓原へ元軍を追撃していつている。博多湾の海岸付近で激しい矢の戦いとなり、少弐景資が劉復亨を射倒すなどして奮戦している。その後、膠着状態が続き、元・高麗連合軍の武器が底を尽き博多の市街に火を放ち焼き払い撤退していった。弘安の役までの間、少弐資能や少弐経資ら鎮西奉行少弐氏は、元軍の再来襲に備えて肥前御家人に対し博多沿岸に防塁築造を命じている。元・高麗軍を主力とした東路軍 40,000 人・軍船 900 艘と、旧南宋軍を主力とした江南軍 100,000 人・軍船 3,000 艘、計 140,000 人・軍船 4,400 艘が日本に向けて出発した。東路軍は防塁のない志賀島に上陸を試みたが、失敗している。日本側は博多沿岸に約 20km にも及ぶ防塁いわゆる元寇防塁を築いていたために、元軍は上陸できず、しかも台風（神風）によって元は壊滅したといわれている。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名事典』新潮社、1995. 909 頁, 1056 頁.

三省堂編修所『コンサイス日本人人名事典』三省堂、1999. 604～605 頁, 752 頁.

福岡市教育委員会編『蒙古襲来絵詞』福岡市教育委員会、1985.

(1) 福岡市（含：糸島市）の史跡

元寇防塁跡（西区小戸、早良区百道および早良区西新など）

福岡市教育委員会の説明によれば、鎌倉時代の1274（文永11）年11月に蒙古（元）の国王フビライが日本侵攻を企て博多に来襲した。この戦いで博多の「まち」は大きな被害を受けたとのことであり、これを「文永の役」といっている。「文永の役」後の1276（建治2）年に鎌倉幕府は九州諸国の御家人に命じて、博多湾岸約20キロメートルにわたり石築地を築かせている。この石築地は元という敵を海岸で防ごうというもので、元寇防塁といっている。この防塁は1281（弘安4）年の「弘安の役」のとき、重要な防衛の役割を果たしたとのことである。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版, 2001年6月. 444～446頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版, 1977年12月. 407頁.

亀原山の元寇亀原戦跡の碑（早良区昭代：祖原公園内）

鎌倉時代における蒙古襲来の際の戦跡碑が祖原山にある。1281年の弘安の役を描いた「蒙古襲来絵詞（もうこしゅうらいえことば）」の中に「亀原」、「鳥飼」、「別府」および「塩屋の松」という地名が書かれているとのことであるが、この「塩屋の松」は亀原山での戦いのほか、現在の樋井川に架かっている塩屋橋（城南区鳥飼4丁目）付近で、この辺りは当時湿地であり、足をとられた騎馬民族である蒙古軍と肥後国の御家人であった竹崎李長（たけさき すけなが）が戦ったと考えられているところである。

ところで、筑前、壱岐および対馬などを最初に侵攻したのは、1274（文永11）年の「文永の役」をさかのぼること、255年前の1019（寛仁3）年3月末に刀伊（とい）であった。刀伊は現在の大陸の沿海地方・中国黒竜江省周辺に住んでいた女真族（じょしんぞく）であった。このとき地方の豪族であった大宰権師や藤原隆家らによって撃退されたとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版, 1973年2月. 後編614頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版, 1993年6月. 172頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房, 1987年11月. 151頁.

西戸崎炭鉱跡と慰霊碑

西戸崎炭鉱は 1937（昭和 12）年 5 月 1 日開坑し、閉山式があった 1964（昭和 39）年 3 月 17 日までの操業であった。西戸崎炭鉱は安川家と大倉衆馬との共同出願で鉱区を設定し、その後明治鉱業と大倉鉱業の共同鉱区に移り、昭和 12 年開坑にしている。「ボタ山」は 1968～1969（昭和 43～44）年頃まで大岳山（大岳神社）のそばにあり、その高さは 5～60 メートルであったとのことである。同炭鉱の入口は大岳山のふもとで、ここから博多湾の海底まであった坑道は、深いところで 1,000 メートルにも達したとのことである。最盛期の出炭量は 1944（昭和 19）年度 112,334 トンで、鉱員の延べ数は 10,203 人であった。

閉山後の「ボタ山」は徐々に崩されて、ゴルフ場になっている。ゴルフ場入口からしばらく歩くと左手に西戸崎炭鉱の坑口跡の碑と採炭殉職者の慰霊碑がある。英霊は 56 柱に及んでいるとのことである。

九州大学石炭研究資料センター『石炭研究資料叢書 第 18 輯』「西戸崎炭礦社史（稿本）九州大学石炭研究資料センター，1997 年 3 月． 55～67 頁．

（石炭輸送が華やかかなりし頃の西戸崎：写真）

<http://tatarayume.org/rb/rekibun/s38.html>

金印発光碑

「金印発光之处」と書かれているところから石段をのぼったところが「金印公園」である。この地から 1784（天明 4）年に金印が出土した。金印の考察を試みたのが福岡藩西学問所「甘棠館」の亀井南冥[かめい なんめい：1743（寛保 3）年～1814（文化 11）年]であった。金印については当時からさまざまな面での論争があったが、奴国が大陸文化の交流地として栄えたことを知るうえで重要な資料でもある。

香椎町役場編纂『香椎町誌』香椎町役場，1953 年 2 月． 389 頁．

福岡市地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社，1999 年 7 月． 83 頁．

柳猛直『福岡歴史探訪 東区編』海鳥社，1995 年 2 月． 54～66 頁．

蒙古塚

金印公園から海岸沿いの道路を西へ行くと右手に蒙古塚がある。供養塔は 1274（文永 11）年の蒙古襲来の際、逃げ遅れた蒙古軍の軍船の二百数十人の首を切って葬ったことに対して供養している。

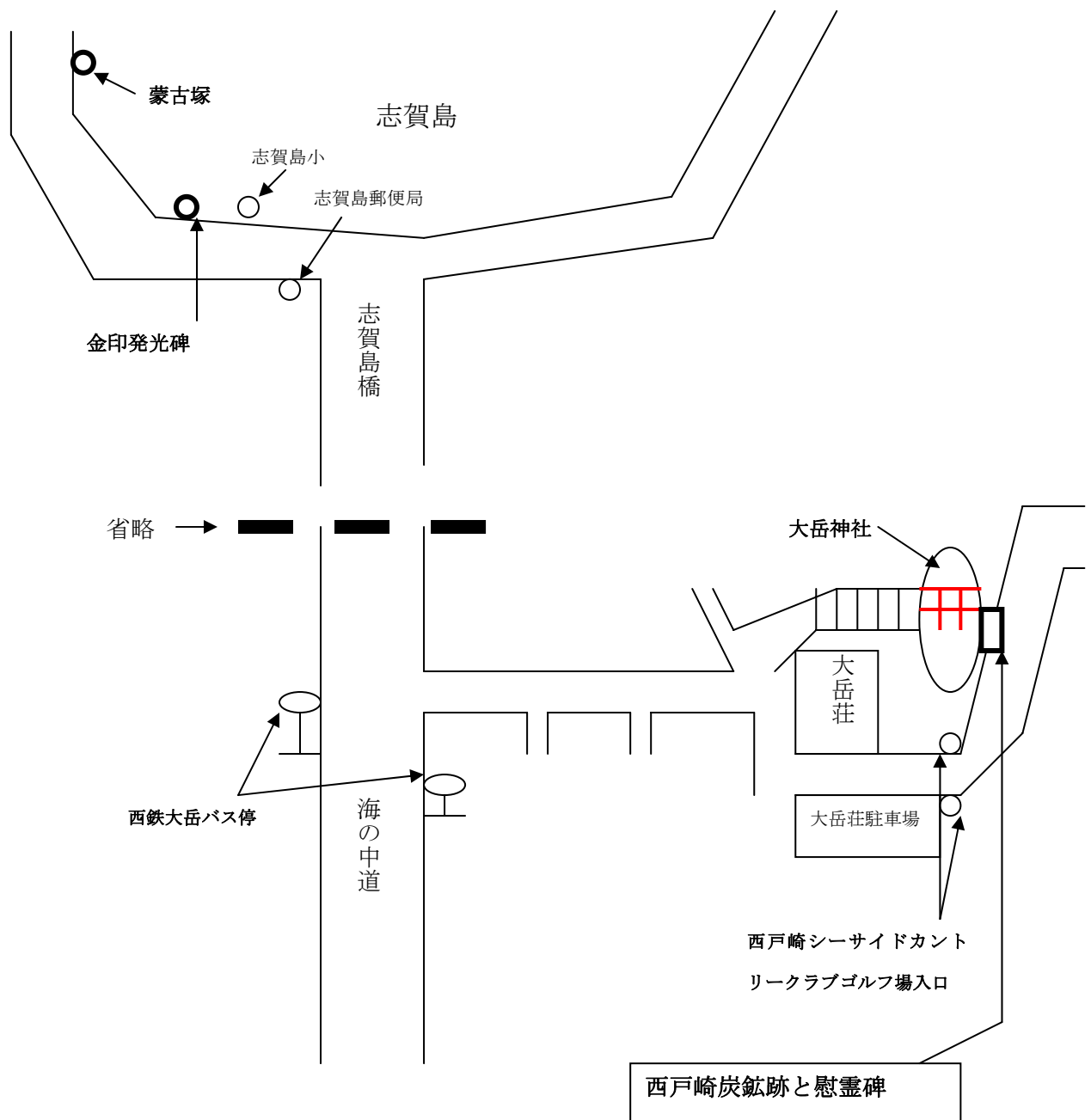
福岡市地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社，1999 年 7 月． 83 頁．

柳猛直『福岡歴史探訪 東区編』海鳥社，1995 年 2 月． 139～145 頁．

西戸崎炭鉱跡と慰霊碑（福岡市東区西戸崎大岳）

金印発光碑（福岡市東区志賀島）

蒙古塚（福岡市東区志賀島）





祖原山の元寇戦跡の碑



志賀島の蒙古塚



西戸崎炭鉱慰霊碑



金印公園入口



福岡市西区丸隈山横の元寇防塁跡の碑



元寇防塁跡（西新）



元寇防塁跡（百道）

正木昌陽（まさき しょうよう）[1827（文政 10）～1905（明治 38）年]

正木昌陽は、若い時期に京都で皇典や故実を学び、のち福岡藩の教官（修猷館）をつとめるかたわら私塾（不狭舎あるいは正木塾）を開いている。昌陽の友人に 1 歳年下の平野国臣がいた。また、正木塾からは金子堅太郎および福本日南（誠）が輩出されている。なお、正木家は代々、支藩である直方黒田家に仕えていたが 1719（享保 4）年に支藩主であった黒田継高が本藩の第 6 代藩主となったときに、正木家も継高公にしたがって福岡に移ってきたとのことであった。

柳猛直『福岡歴史探訪 中央区編』海鳥社, 1996 年 4 月. 111～120 頁.

平野国臣（ひらの くにおみ）[1828（文政 11）～1864（元治元）年]

福岡藩士平野吉三の次男として、1828（文政 11）年福岡地行に生まれる。早くから国学を学び有識故実、雅楽をきわめ尊王の志に厚く、尊皇攘夷運動に奔走中「回天三策」を朝廷に建白（自分の意見を申し立てること）したことで投獄される。1863（文久 3）年に上京し、学習院出仕を命じられたが、8 月 18 日の政変で京都を去る。10 月の但馬の「生野の変」で敗れ、捕らえられて 1864（元治元）年 7 月 20 日の「蛤御門の戦」のときに獄中で斬殺されている。また、国臣は神道夢想流杖術（太宰府の竈門神社に発祥の地の碑がある。）の達人であったとのことであった。

井上精三『博多郷土史事典』葦書房, 1986 年 11 月. 226～227 頁.

三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典<改定新版>』三省堂, 1999 年 10 月. 1046～1047 頁.

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 3 月. 1443 頁.

西日本新聞社編『博学博多一ふくおか深発見一』西日本新聞社, 2007 年 6 月. 180～181 頁.

金子堅太郎（かねこ けんたろう）[1853（嘉永 6）～1942（昭和 17）年]

藩校修猷館に学び藩侯のアメリカ留学生に選ばれ 1871（明治 4）年渡米、ハーバード大学を卒業する。帰国後元老院に入り、制度取調べ局員を経て 1918（大正 7）年首相秘書官となり、伊藤博文の下で明治憲法草案の起草に参画した。その後貴族院書記官長、貴族院議員、第 2 次伊藤内閣農商務次官、第 3 次伊藤内閣農商務相を歴任した。1933（昭和 8）年立憲政友会結成の際創立委員・総務委員、同年第 4 次伊藤内閣法相。日露戦争時渡米し対米工作をおこなう。維新史料編纂会総裁として「明治天皇記」編纂の功により 1934（昭和 8）年伯爵となる。日露戦争時渡米し、ハーバード大学時代の学友であったセオドア・ル

ーズベルト（Theodore Roosevelt：1858～1919）第 26 代大統領が影から支え、有利な講和の功労者として金子堅太郎の働きがあった。

なお、金子堅太郎少年は、林遠里が旧藩時代の砲術師範（当時の名は策兵衛）をしていた頃、砲術の指導を受けている。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 3 月. 491 頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房, 1986 年 11 月. 41 頁.

三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典＜改定新版＞』三省堂, 1999 年 10 月. 350 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社, 1995 年 11 月. 82 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 中央区編』海鳥社, 1996 年 4 月. 112 頁.

福本日南（誠）（ふくもと にちなん）[1857（安政 4）～1921（大正 10）年]

安政 4 年福岡の地行生まれ。1879（明治 12）年司法省法学校を学内騒動によって原敬（はら たかし）らの人々とともに退学となり、のちにのちに政教社同人となる。1889（明治 22）年「日本新聞」創刊と同時に記者となる。また、アジア問題に関心をもち 1890（明治 23）年にフィリピンに渡るが、同士の死去により帰国する。1905（明治 38）年の 11 月玄洋社機関誌である九州日報の社長兼主筆、1908（明治 41）年 5 月の第 10 回総選挙に国民党から出馬して衆議院議員に当選し犬養毅（いぬかい つよし）を助けている。1912（大正元）年政界を退き、1916（大正 5）年中央義士会を興した。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 3 月. 1466 頁.

三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典＜改定新版＞』三省堂, 1999 年 10 月. 1061 頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房, 1986 年 11 月. 253～254 頁.

亀井南冥（かめい なんめい）[1743（寛保 3）～1814（文化）11 年]

亀井南冥は 1743（寛保 3）年、現在の福岡市西区姪の浜 3-15-9 の医師の家に生まれた。1784（天明 4）年福岡藩校の東学問所「修猷館」（朱子学）とともに開設された西学問所「甘棠館（かんとくかん）」の学長となった。その後、朱子学が尊ばれるようになり、1792（寛政 4）年に甘棠館をやめさせられ、また甘棠館も火災になり廃校となったとのことである。

南冥は奥村玉蘭、高場乱や広瀬淡窓（1782～1856 年：日田の豆田の^{かんぎえん}咸宜園を開き、高野長英や大村益次郎などの人材を輩出している。）などの人材を育成している。また、南冥は金印を鑑定したことで有名である。能古島の能古博物館には亀井一門の資料の保存・展示がなされている。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月. 510 頁.

三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂, 1999 年 10 月. 361～362 頁.

西日本新聞社編『博学博多 ふくおか深発見』西日本新聞社, 2007 年 6 月. 90～91 頁.

亀井昭陽（かめい しょうよう）[1773（安永 2）～1836（天保 7）年]

昭陽は父親南冥の長男であり、父親の失脚後家督を継いでいる。1806（文化 3）年江戸に遊学する。父親を継いで徂徠学を奉じ家学（かがく：その家で親子代々にわたって受け継いできた学問）を完成させている。また、南冥とともに私塾百道（ももち）社を作って門弟の育成をおこなっていたとのことである。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月. 510 頁.

三省堂編修所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂, 1999 年 10 月. 361～362 頁.

甘棠館（西学問所跡）（福岡市中央区唐人町3丁目1—11の当仁公民館付近）

平山城址跡（福岡市中央区鳥飼2丁目4—61付近）

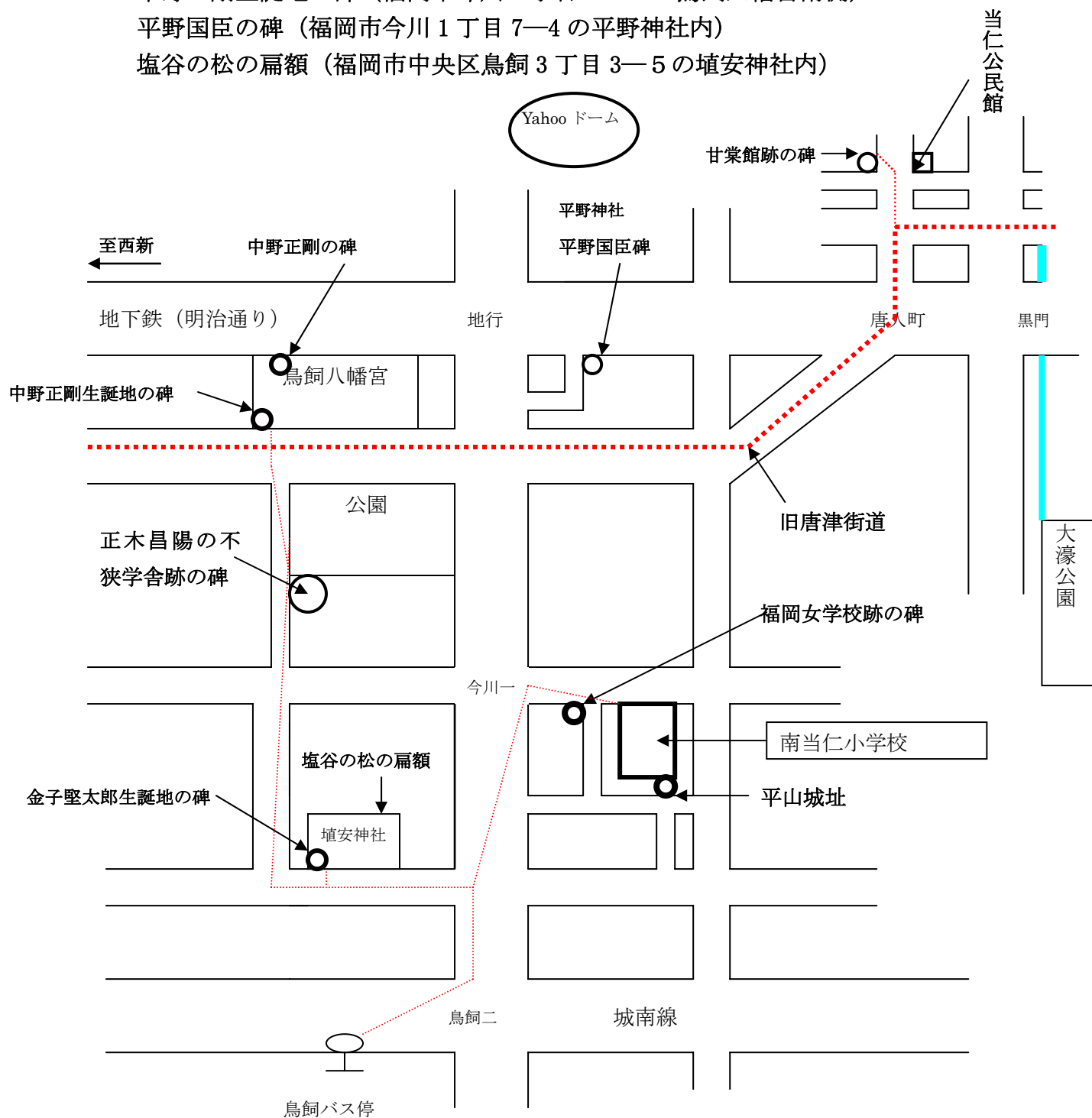
正木正陽の不狭学舎跡の碑（福岡市中央区今川2丁目8—20）

金子堅太郎生誕地の碑（福岡市中央区鳥飼3丁目3—5の埴安神社内）

中野正剛生誕地の碑（福岡市今川2丁目1—17の鳥飼八幡宮南側）

平野国臣の碑（福岡市今川1丁目7—4の平野神社内）

塩谷の松の扁額（福岡市中央区鳥飼3丁目3—5の埴安神社内）





甘棠館（西学問所跡）



甘棠館（西学問所跡）



平山城址跡（南当仁小付近）



福岡女学校跡の碑



正木正陽の不狭学舎跡の碑



金子堅太郎生誕地の碑



金子堅太郎生誕地の碑



埴安神社（金子堅太郎生誕地と塩屋の松の扁額）



中野正剛生誕地の家（鳥飼神社）



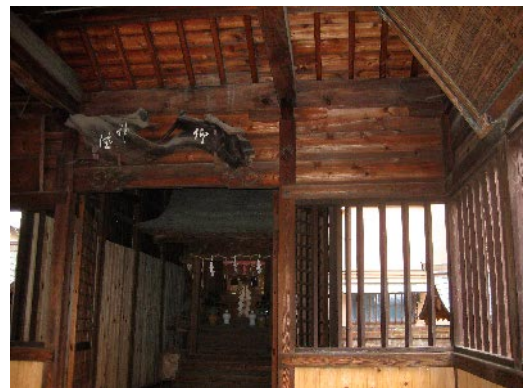
平野神社



平野国臣生誕地の碑



塩谷の松の扁額：埴安神社

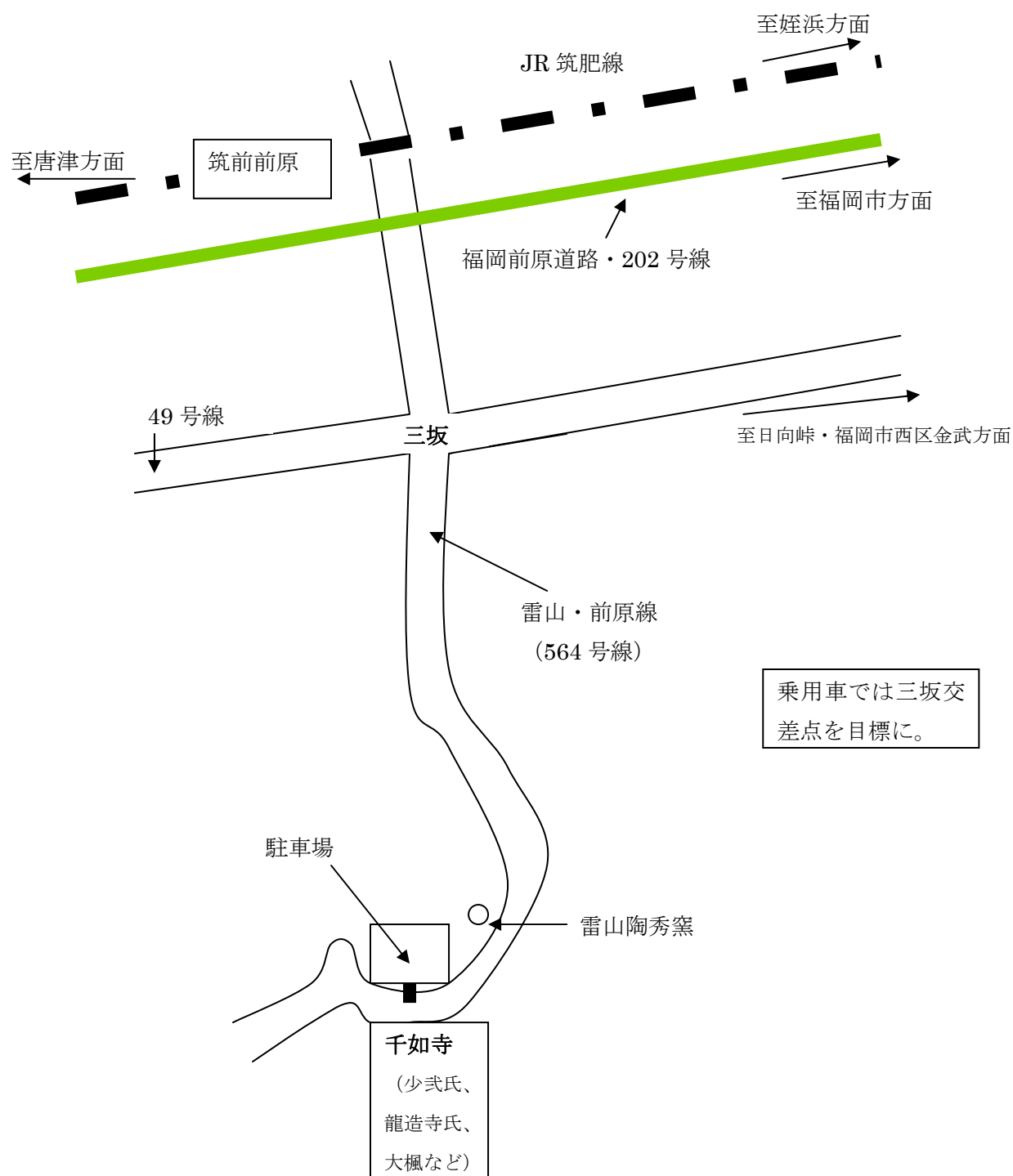


塩谷の松の扁額：埴安神社

雷山千如寺大悲王院（福岡県糸島市雷山 626）

雷山千如寺（らいざんせんによじ）は雷山の中腹にあり、西暦 725 年に天竺（てんじく＝インド）の僧 清賀上人（せいがしょうにん）が開創したと伝えられている古い由緒のある寺である。その後、聖武天皇（701～756 年）によって勅願道場（ちよくがんだうじょう：一般的には、時の天皇・上皇の発願により、国家鎮護・皇室繁栄などを祈願して創建された祈願寺のこと）となり奈良時代や平安時代には七堂伽藍が並ぶ荘厳な寺院だったようである。鎌倉時代には木造十一面千手千眼観音像や、清賀上人の座像が奉納され、坊舎も約 300 もあったといわれています。室町時代には現在の聖天堂や心字庭園が造られ、1752（宝暦 2）年には福岡藩主の黒田継高公が現在の寺である大悲王院を建立している。雷山千如寺は安産、子育て、開運厄除等の祈願所として知られており、また身代りの御守り（サムハラ）のお授け所として大衆の信仰を集めています。雷山千如寺の境内にある樹齢約 400 年の大楓（大カエデ）の紅葉は有名で、2010 年度は NHK 福岡放送局午前 7 時 45 分からの「おはよう福岡」紅葉情報として放映されていました。寺には龍造寺氏や太宰少貳氏に関する資料が開示されている。

雷山千如寺大悲王院（福岡県糸島市雷山 626）

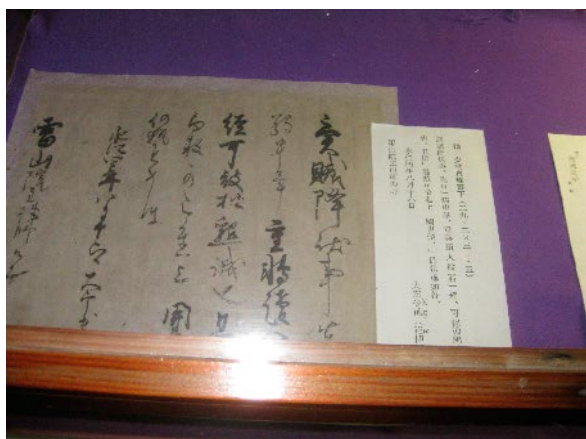




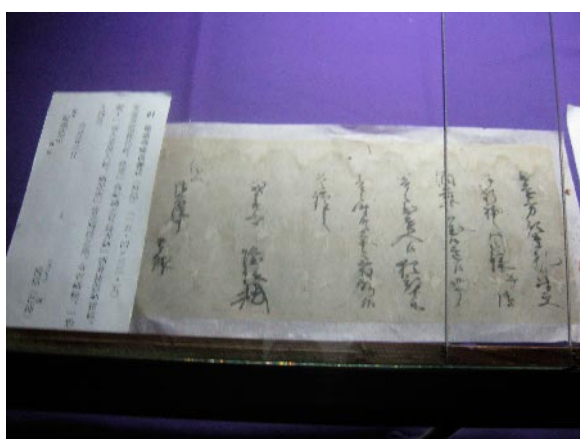
樹齡 400 年の大カエデ



樹齡 400 年の大カエデ



少弐貞経書下



龍造寺隆信の書状

(2) 那珂川町の史跡

少弐景資[しょうに かげすけ：？～1285(弘安 8)年]、岩門城址(那珂川町山田)

少弐(武藤)景資は、少弐資能[しょうに すけよし：1198(建久 9)～1281(弘安 4)年]の3男で、文永・弘安の役に活躍している。1274(文永 11)年蒙古軍の筑前上陸のときに、大將軍として守護・地頭等を指揮した。また、1281(弘安 4)年の際にも船団数百隻で蒙古軍に攻め込み戦功をあげた。鎌倉で霜月騒動の影響下に起こった岩戸合戦においては、安達氏との結びつきを強め、兄である経資(つねすけ)と家督を争って岩戸城で敗死したとのことである。福岡県那珂川町大字 476 の民家の庭先に少弐景資の墓(五輪の塔)がある。

三省堂編修編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂, 1999 年 10 月. 644 頁.

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社, 1995 年 5 月. 909 頁.

川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社, 2001 年 4 月. 18～21 頁. 130～131 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 541 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版, 1993 年 6 月. 447 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社, 1999 年 7 月. 283～285 頁.

裂田神社(那珂川町安徳)

祭神は神功皇后とのことで、^{とどろきのおか}迹驚岡に水を通そうとしたところ大岩盤のため溝を掘れなかったのを武内宿禰が神に祈ると雷鳴が轟いてその大岩盤が炸裂したといわれている。その炸裂した大岩盤は裂田神社の裏にある。

川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社, 2001 年 4 月. 168 頁.

堀淳一『地図で歩く古代から現代まで』JTB, 2002 年 1 月. 60 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 上巻』文献出版, 1993 年 6 月. 342 頁.

裂田溝(那珂川町山田、安徳)

那珂川の上流、山田地区の「一の井手」から取水し、山田地区の住宅地および田園と岩戸城址の麓、裂田神社の裏、安徳台(迹驚岡)を通して、最後はまた那珂川へつづく約 1.5

キロメートルを「裂田溝」という。裂田溝は古代灌漑水路であるが、現在もこの地区の重要な水路であり、公園化とともにいっそうの整備がなされている。裂田神社のところで記述しているように武内宿禰との関係が言われているが、活断層との関係も言われている（参考文献の堀淳一の 60 頁参照）。

堀淳一『地図で歩く古代から現代まで』JTB, 2002 年 1 月. 60～66 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 上巻』文献出版, 1993 年 6 月. 345～346 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 133～134 頁.

川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社, 2001 年 4 月. 56～57 頁.

高橋善蔵[たかはし ぜんぞう：1684（貞享元）～1761（宝暦 11）年](那珂川町山田)

高橋善蔵は山田村に生まれている。当時より、この山田村は肥前神埼と坂本峠を經由して筑前博多とを結ぶ中間点であり、また大宰府と早良や糸島とを結ぶ交通の要衝であるとともに裂田溝もあり比較的裕福な地に生まれている。高橋善蔵は山田村の庄屋になり、地域農業の発展に寄与している。1730（享保 15）年肥後や薩摩でハゼ栽培が盛んになされていることを知ると、その技術を学ぶために薩摩に出かけたとのことであった。そして、宗旨手形（しゅうしてがた：寺請け状）が必要なことや、自国の殖産技法が他国へ洩れることを禁止していたため、高橋善蔵らはにぎり飯のなかにハゼの実を入れて持ち帰ったといわれている。筑前にかぎらず全国的に 1730（享保 15）年以降大飢饉が起こっているが、山田村では大きな犠牲者は出ていないということである。それは当時の山田村が裕福で、庄屋を中心に助け合っていたからであるとのことである。

福岡藩がハゼの栽培を奨励したのは 1736～1744 年のころとのことである。ここに高橋善蔵の功績があったということである。福岡藩の産物はハゼ、焚石^{たきいし}および卵であり、「旅行商人^{たびりやうしん}」が福岡藩のこれらの産物を伊万里で販売し、陶磁器を仕入れて全国一円に船で販売していたことと一致している。

川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社, 2001 年 4 月. 116～126 頁.

内山敏典「徳川幕府期における伊万里焼国内流通の研究―筑前における陶器商人の役割を例として―」『九州産業大学 柿右衛門様式陶芸研究センター論集』柿右衛門様式陶芸研究センター, 2008 年 3 月. 11～25 頁.

高津神社（那珂川町山田）

高津神社は、岩戸城址の中腹に位置し、そこにある茶臼石付近が出城としての役割を果たしてきたが、元々は平安時代にこの地を治めていた原田種直が怡土（いと：現在の前原市）の高祖（たかす）神社を勧請したのが始めである。

川崎幹二『那珂川町の歴史探訪』海鳥社, 2001 年 4 月. 163 頁.

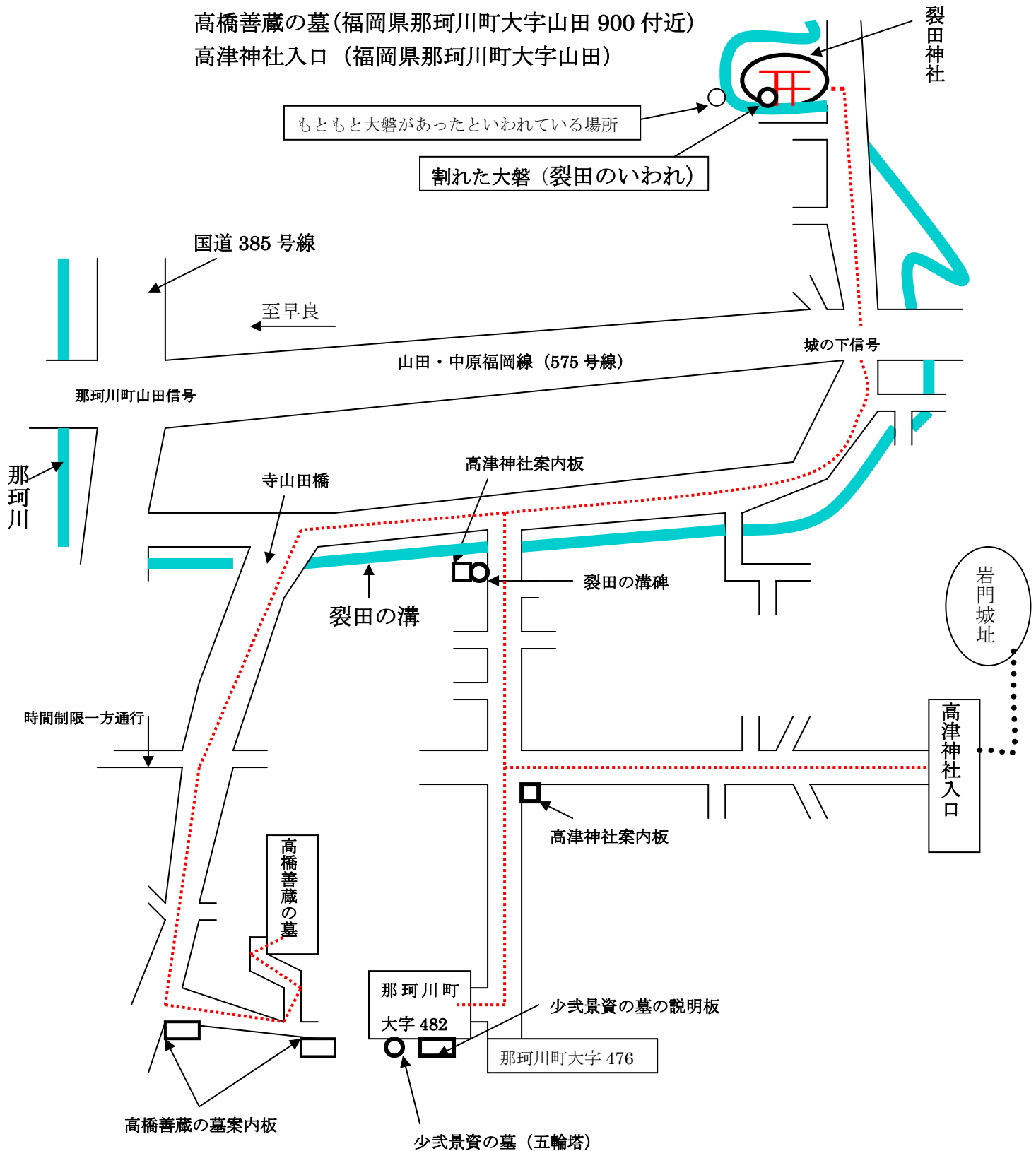
安徳台と安徳宮（那珂川町安徳）

安徳台は往古において迹驚岡若しくは御所ヶ原といわれ、平安期において大蔵氏と関係がある土地で原田種直の居館があったところである。原田種直は寿永年間（1182－85 年）に 3,700 町歩（10 万平方メートル）を有し、大宰権少弐といわれた。また、源氏に追われた安徳天皇が平家一門に守られて居したところである。現在はミカンと栗畑であるが、以前はハゼが植えられていたとのことであった。この安徳台は溶岩台地で 10 数メートルの高さの大地でここに安徳天皇を祭る安徳宮がある。この近くに大塚古墳がある。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 上巻』文献出版, 1993 年 6 月. 342～345 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月. 132～133 頁.

少式景資の墓（福岡県那珂川町大字 476）
 裂田神社（福岡県那珂川町大字安徳）
 裂田の溝（福岡県那珂川町大字山田・安徳）
 高橋善蔵の墓（福岡県那珂川町大字山田 900 付近）
 高津神社入口（福岡県那珂川町大字山田）

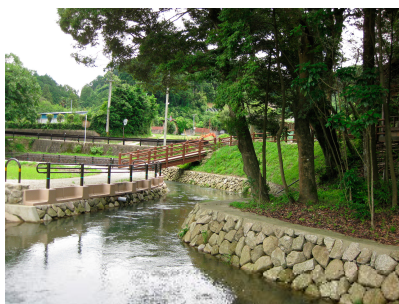




裂田神社にある「裂田の溝」の説明板



裂田神社



裂田神社裏にある裂田の溝



裂田神社内の絵馬



武内宿禰の祀り祈りの落雷で割れた大磐 1
神社裏



武内宿禰の祀り祈りの落雷で割れた大磐 2
神社裏



もともと大磐があった場所といわれている
ところ。神社裏。



大字山田の「裂田の溝」とその碑



大字山田の「裂田の溝」からの岩門城址遠望



高津神社入口



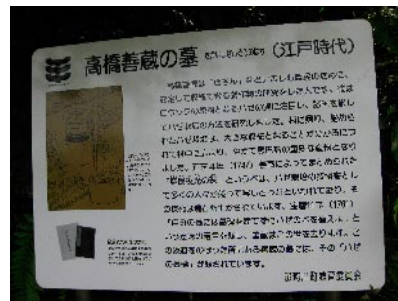
少貳景資の墓の説明板



少貳景資の墓（五輪の塔）



高橋善蔵の墓の案内板

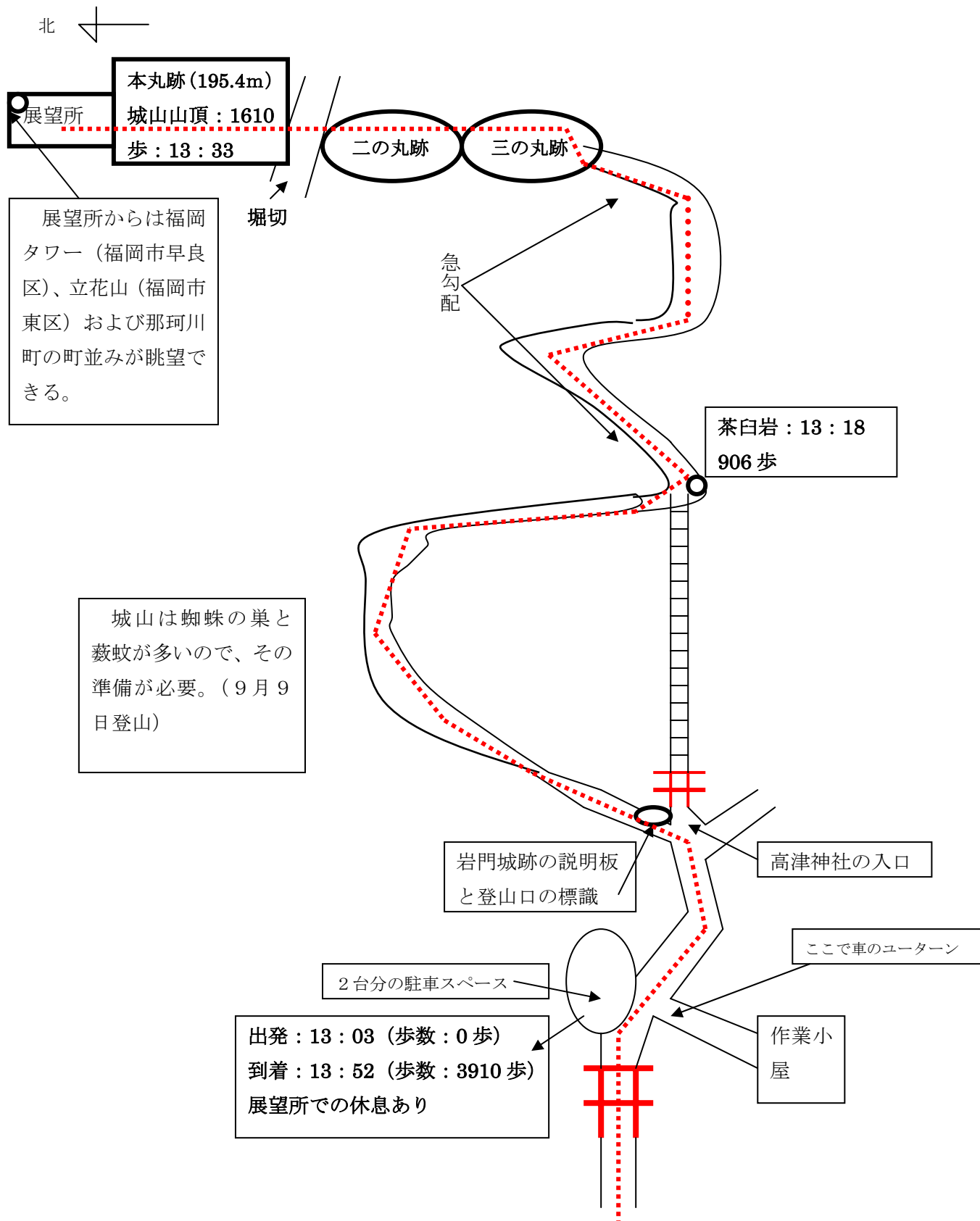


高橋善蔵の墓の説明板



高橋善蔵の墓

岩門城址（福岡県那珂川町安徳）





高津神社入口と登山口の標識



登山道案内矢印



茶臼岩



茶臼岩



三の丸跡



二の丸跡



堀切



堀切



本丸跡



本丸跡



本丸下（西側）の展望所から福岡
タワー方面と那珂川町の町並み



本丸下（西側）の展望所から立花山
方面と那珂川町の町並み



本丸下の北側にある展望所



岩門城址（城山）遠望

第Ⅲ部 福岡県以外の歴史と文化について

3. 肥前浜宿（佐賀県鹿島市）と塩田宿（佐賀県嬉野市）

鹿島市は人口ピーク時の 1950（昭和 25）年の人口 39,013（男 18,419、女 20,594）人から 2005（平成 17）年の人口は 32,117（男 14,985、女 17,132）人で減少傾向を示している。

肥前浜町は、浜川の河口につくられた^{さいごうまち}在郷町（日本において中世から近世の時代に、農村部などで商品生産の発展に伴って発生した町・集落で、町の中心となる施設（城郭・大きな宿場・有力寺社など）がないことで、町まで距離がある農村部において自然発生的にできたものである）で、室町時代には町として成立していた。江戸時代は長崎街道多良海道（往還）の宿場町として栄え、明治以降も酒造業や水産加工業に支えられ、豊かな町並みがつくられていた。江戸時代から「浜千軒」といわれている。慶長年間（400 年前）にスペインのドミニコ会が肥前で最初の教会を建てている。肥前浜宿は江戸時代からそれぞれの地区に異なった業種の人々が住み分けしていた名残が残っている。すなわち、往還沿いやその周辺には、商家町、漁師町、下町、田園などがある。2006（平成 18）年 4 月に「^{はましようづまちはまかなやまち}浜庄津町^{はまなかまちはちほん きしゆく}浜金屋町」が港町・在郷町として、「^{はまなかまちはちほん きしゆく}浜中町八本木宿」が醸造町として、2 地区同時に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定（2006 年現在、全国では 78 箇所）されている。

まちづくり運動は平成元年頃から疲弊した町を憂い、元気を取り戻したいということから出発している。地元有志で「21 世紀浜んもん会」を結成し、鮎市の活性化に取り組み、餅つき、地元婦人会の協力による「ふなんこぐいの試食」や「炊き出し」などをおこなっている。水路への鯉の放流、ウォークラリーや先進県へ視察など、浜のまちづくり運動が始まった。1993（平成 5）年～1996（平成 8）年まで酒蔵（600 人収容）でのシンポジウム、絵画展、コンサートなどを 16 回開催している。第 1 回目は江戸時代より昭和初期まで続いていた窯場の皿山が取り上げられ「浜の皿山と色鍋島の関係について」の講演会等であったとされている。

町並み保存に向けて「肥前浜宿町並み保存研究会」の発足、「歴史的な町並み活性化マスタープラン検討委員会」やその下部組織「ワークグループ」の結成をおこない、2 年半かけて基本方針の作成を作成し、2002（平成 14）年に市長へ答申している。2001（平成 13）年ワークグループのメンバーを母体に「肥前浜宿水とまちなみの会」（2005 年に NPO 法人）が発足し、町造りに取り組み、2005 年に「肥前浜宿」を商標登録している。まちの機運づくりとして、「鮎市協賛催事」、「花と酒祭り」、「肥前浜宿スケッチ大会」、「街角・酒蔵美術館」、「酒蔵コンサート」、「白壁土蔵“^{つぎば}継場”の修復」、「^{かやぶ}茅葺き武家屋敷“^{のりた}旧乗田家住宅”の修理」、「浜川河川協議会による歴史的護岸などの再生」、「肥前浜宿まちづくり協議会による伝統的家屋等修理・修景」などをおこなっている。今後の問題点として老朽化が日々進む伝統的建築物の応急措置は限界にきているとのことで、維持するための人の高齢化、資金など多くの問題をはらんでいるとのことです。

このような問題があるにせよ、「まちづくり運動」によってこの伝統的地区だけで年間約 50,000 人の観光客が訪れるとのことであり、またこの地区の近くには年間 300 万人の参拝客がある祐徳稲荷神社があり、ここの参拝客をいかに取り込むかが重要でとなろう。

さらに、この地区の近くには旧長崎街道の塩田宿（嬉野市）がある。嬉野市は人口 28,835（2010 年 11 月 1 日）で、2006（平成 18）年 1 月 1 日に藤津郡塩田町と合併し、塩田町は嬉野市塩田町となった。嬉野においては天正年間（1573～1591 年）年の磁鉱石の発見に端を発し、また江戸時代に鍋島藩の奨励によって嬉野町吉田・皿屋地区で「肥前吉田焼」が興ったとのことで、現在は主に有田系の磁器生産が皿屋地区でなされているとのことである。ところで、塩田町は、浜宿と同様、「嬉野市塩田津伝統的建造物群保存地区」がある。この塩田宿は有明海に注ぐ塩田川河口約 7km の位置にあり、塩田津（干満の差を利用した河港）としても栄えた。塩田町においても 1700 年前後から「志田焼」の生産がおこなわれ、大正から昭和にかけて磁器が大量生産されている 1984（昭和 59）年工場廃止となったが、工場跡は「志田焼の里博物館」となっている。明治以降の塩田津は有田焼の原料となる熊本・天草陶石を陸揚げし陸送する陶土の町として繁栄していた。旧長崎街道に面した通りには耐火機能をもつ江戸時代から明示にかけての「居蔵造」の町家が軒を連ねている。代表的な町家としては回船問屋の西岡家住宅（国の重要文化財）、杉光陶器店（江戸時代末期）があり、杉光陶器店の三の蔵は塩田銀行[1910（明治 43）～1916（大正 5）年]として使用されたとのことである。現在、塩田地区は電線・電柱の地中化を進め、重要建造物の立替工事がなされている。塩田町の観光客数は不明であるが、嬉野市への観光客数は温泉町でもあり、年間 170 万人（2000 年）であった。

鹿島市ホームページ：http://www.city.kashima.saga.jp/kashima/toukei/kokusei_17.html

（人口データを引用）

鹿島市・佐賀大学理工学部三島研究室『肥前浜宿重要伝統的建造物保存地区ガイドライン—修理・修景事業の解説—』鹿島市．2008 年．

河島悦子『伊能図で甦る古の夢 長崎街道』ゼンリンプリンテックス，1999．

熊本善泰「「肥前浜宿」歴史的資産を生かしたまちづくり、経緯と展望」『肥前浜宿町並みとまちづくり』NPO 法人肥前浜宿水とまちなみの会．1～7 頁．

三島伸雄「肥前浜宿の町並み」『肥前浜宿町並みとまちづくり』NPO 法人肥前浜宿水とまちなみの会．8～13 頁．

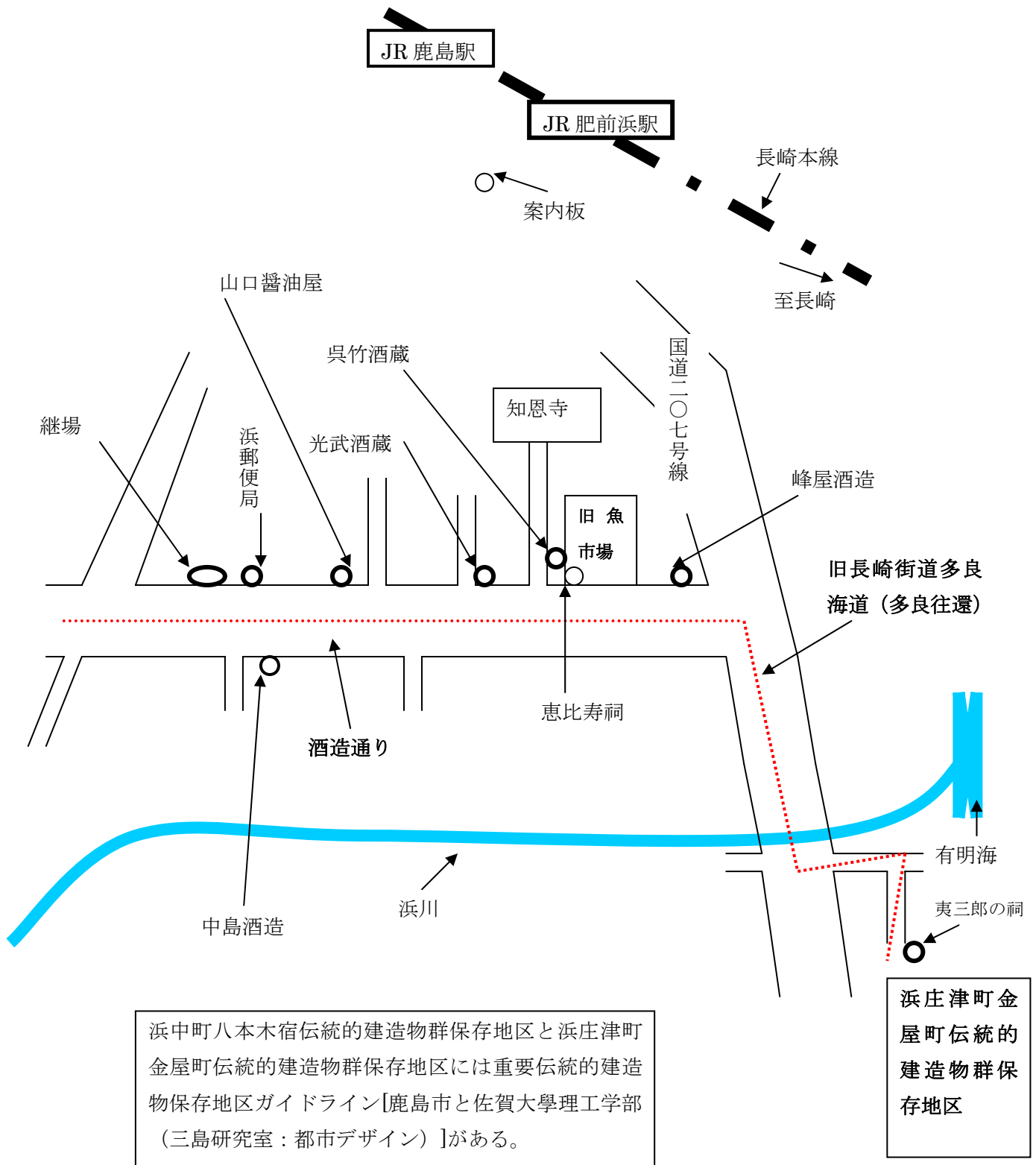
NPO 法人肥前浜宿水とまちなみの会「肥前浜宿」鹿島市商工観光課等．

佐賀新聞ウェブニュース：<http://www.saga-s.co.jp/news/saga.0.1468140.article.html>

（年間観光客数のデータを引用）

<http://www.wakuwaku-ogi.com/kaidou/2-shiota.html>

(1) 浜中町八本木宿伝統的建造物群保存地区（通称：酒蔵通り）





浜宿東側（佐賀市方面）から



浜宿



肥前浜宿町並み案内図



鮎市とフナンコクイ（1月19日）
恵比寿様に高価な鯛の代わりに鮎を供えた
（旧魚市場前の恵比寿祠）



浜の酒蔵

昭和8年ごろに造られた呉竹酒蔵で、コンサートがおこなわれている



浜宿町並み（酒造通り）



浜宿町並み（酒造通り）
（戦前までの醤油屋、油屋、魚市場などの白壁土蔵の町屋で、現在数軒が酒を醸造）



浜宿町並み（酒造通り）



光武酒造場（明治 14 年建築）



酒蔵通り（旧八宿から中町の町並み）



酒蔵通り



酒蔵通り



酒蔵通りにある醤油屋



浜郵便局跡

(継場制度を利用して、明治政府郵便局制度
によって設立された浜郵便局跡)



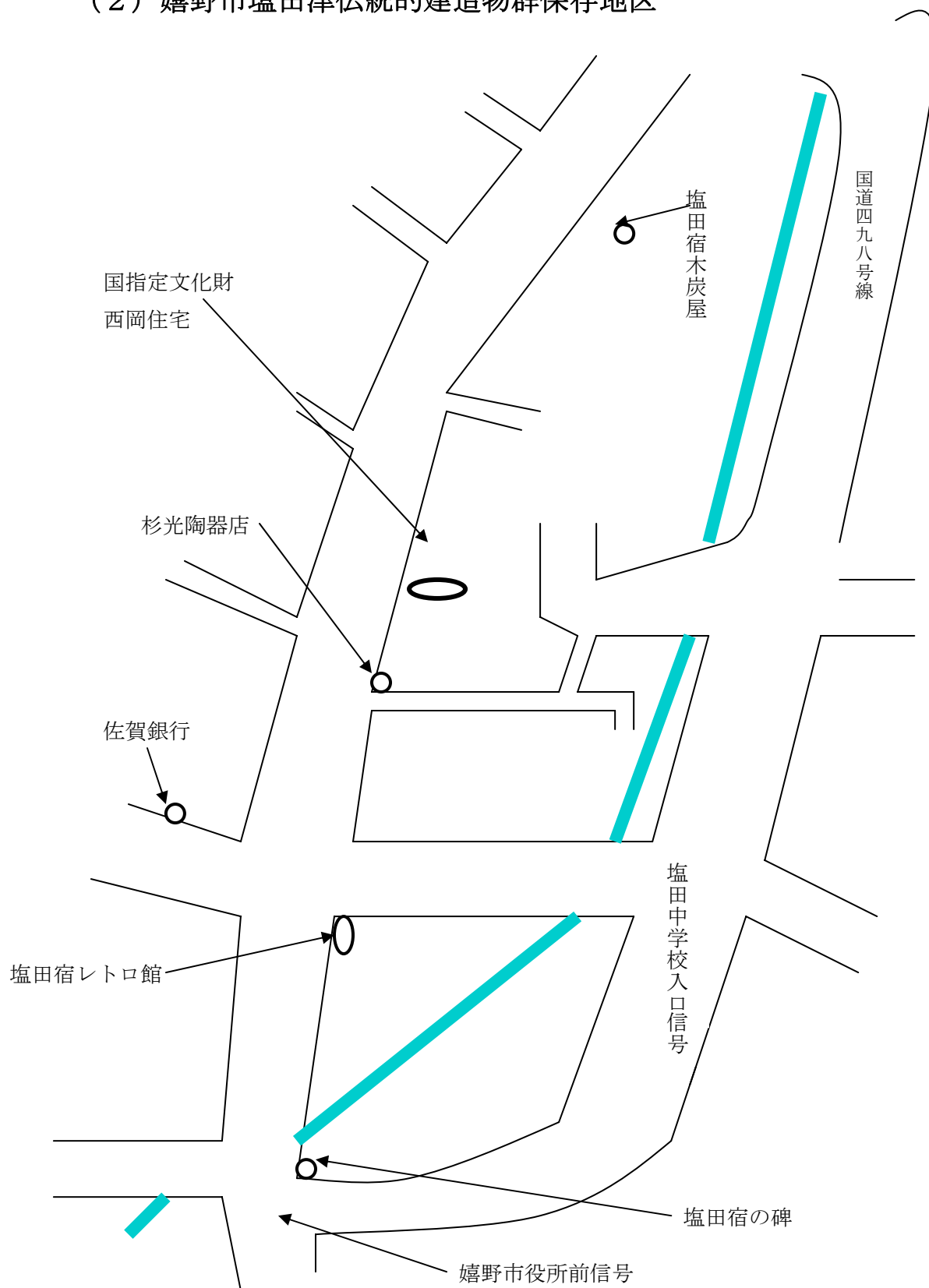
浜郵便局跡



継場跡

(荷物を宿場から宿場へ繋ぐ場所)

(2) 嬉野市塩田津伝統的建造物群保存地区





塩田宿構口



佐賀銀行塩田支店前の通り



伝統的建造物の立替



伝統的建造物群保存地区の町並み



伝統的建造物群保存地区の町並み



塩田宿レトロ館

4. 大分県豊後高田市（昭和の町）

豊後高田市の人口は2010（平成22）年7月現在24,514（男：11,467、女：13,514）人で1980（昭和55）年から減少し続けている。11世紀前半は宇佐神宮の荘園のひとつである田染^{たしづのしょう}荘が開かれ、大友能直[おおとも よしなお：鎌倉時代の武将・御家人で大友氏の初代当主：1172（承安2）年～1223（貞応2）年]に伴って豊後に下向し、1196（建久7）年には高田重定により高田城が築かれている。1632（寛永9）年に松平重直[1601（慶長6）年～1643（寛永19）年]が豊前国竜王（現在の宇佐市安心院町）に入封し竜王藩^{りゅうおうはん}が成立した。1639（寛永16）年に居城を高田に移し高田藩と称した。1669（寛文9）年に島原藩の飛び地となり島原領豊洲陣屋が築かれている。1889（明治22）年4月1日の町村制以降、町村合併が繰り返され1954（昭和29）年5月30日に豊後高田町となっている。同年5月31日に田染村を豊後高田町に編入と同時に豊後高田市となった。その後も合併が繰り返され現在の豊後高田市となっている。しかしながら、冒頭にも記述しているように、とくに昭和30年代以降人口の減少傾向が続き、宇佐参宮線[1914（大正3）年3月25日～1965（昭和40）年8月21日：豊後高田から宇佐八幡までの区間（豊後高田、封戸、宇佐、橋津、宇佐高校前、宇佐八幡の各駅）]の廃線やモータリゼーションの進展などによって人の流れが変わり、他都市と同様、豊後高田市における中心商店街も急速に衰退していった。

豊後高田市の核となる商業施設は従来からの商店街で、その商店街の衰退はいっそうの人口減少、商店街のさらなる衰退の負の連鎖が進行していく危険があった。まちの復興のために、商工会議所を中心とした「豊後高田商業まちづくり委員会」の設立がなされ、さまざまな検討会議を経て、活性化へのテーマを「中心市街地」と定め、古代から近代に至るまでの歴史の調査から出発し、その時間・空間軸を1枚の地図に組み込む「豊後高田市のストリート・ストーリー」を作成している。既存の市街地、その歴史的背景、まちづくりの先例といったそれぞれの要素を検討する中で、古くて不便である既存の商店街が歴史と伝統のある昭和のまち（既存商店街の7割近くが昭和30年代以前の建物）の姿をとどめた魅力であるという結論に達し、また歴史を振り返るなかで市が最も活気があった昭和の商店街再生に向けた取り組みが始まり、現在に至っている。

再生取り組みとして、各商店のパラペット（屋上の欄干）の撤去、看板のむき出し、一店一宝、昭和の商人再生（おもてなし）、コアとなる施設の整備（昭和ロマン蔵など）、商店街のイベント（「街並みめぐり」や「おかみさん市」の自主イベント、「昭和の町音楽祭」など）、観光まちづくり株式会社の設立などをおこなっている。

豊後高田市「認定中心市街地活性化基本方針のフォローアップに関する報告」（2010年3月）によれば、2007（平成19）年の観光入り込み客数はイベント効果等で約36万人、2008（平成20）年は景気低迷などで約31万人、2009（平成21）年は約33万人となっている。また、2008年の観光消費額は平均で3,924円と2007年に比較して約700円増加し、観光客滞在時間（2時間を超える個人の割合）も2007年の26%から2008年の28%と2%上昇したとの報告がなされている。今後も策定された基本計画の主要事業を推進していくことになっているとのことである。ただ、商店街経営者の高齢化および商店街間の来街者格差な

どの課題も生じているとのことである。

過去には宇佐参宮線が営業されていたように豊後高田市の近接には宇佐神宮がある。宇佐神宮には正月 2 日間で 30 万人（西日本新聞社 2011 年 1 月 3 日付け記事より）の参拝客が訪れる観光スポットがある。豊後高田市の「昭和の町」は宇佐神宮および国東半島歴史遺産など、これまで以上に密接な連携をおこなうことが重要であろう。

豊後高田市商工観光課 <http://www.city.bingotakada.oita.jp>

豊後高田市観光まちづくり株式会社 <http://www.showanomachi.com>

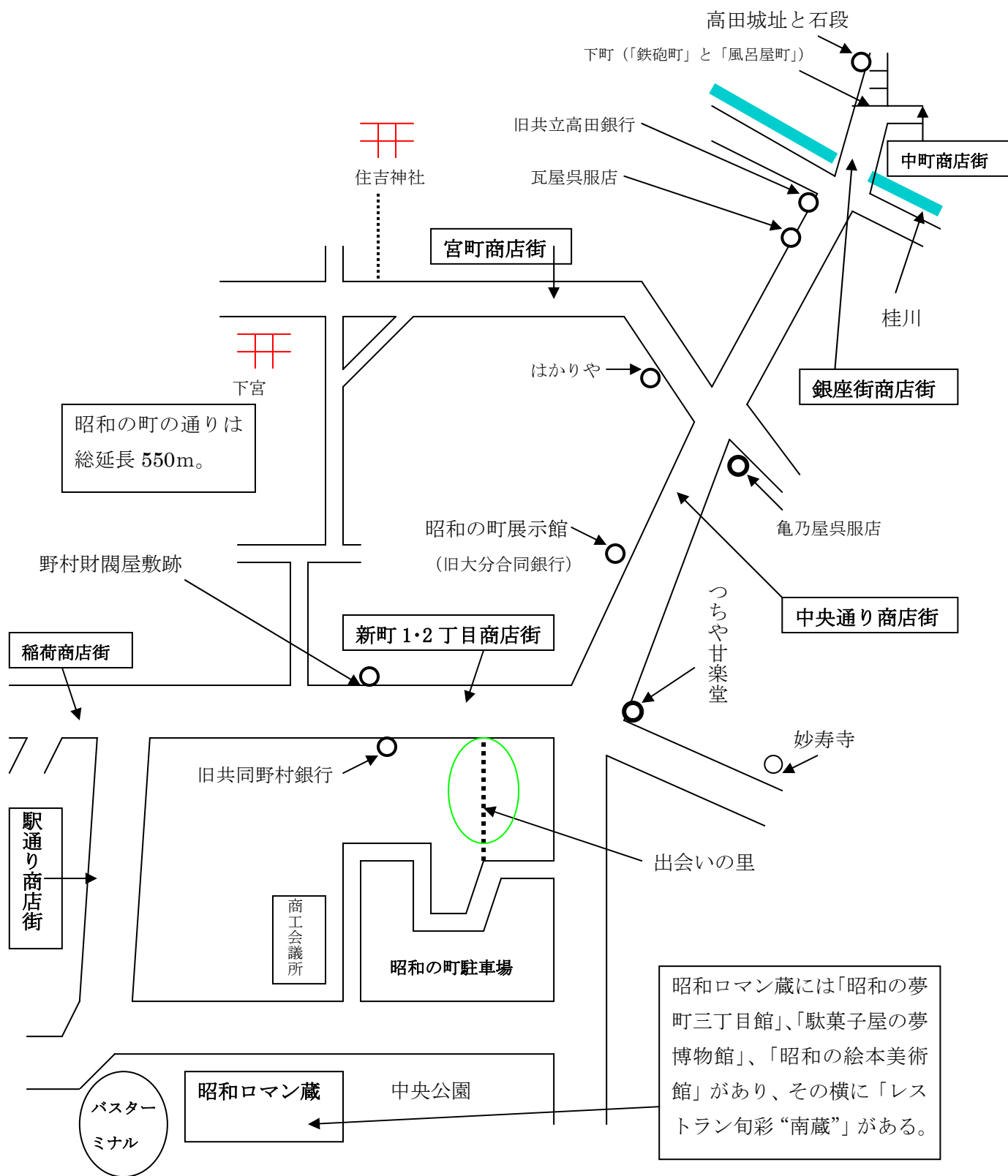
中小企業庁：がんばる商店街 77 選：豊後高田市内 8 商店街

<http://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/shoutengai77sen/machidukuri/8kyuushuu/>

豊後高田市観光協会「そば屋案内パンフレット」

仏のさとくにさきふれあい観光振興協議会「国東半島パンフレット」

豊後高田市昭和の町

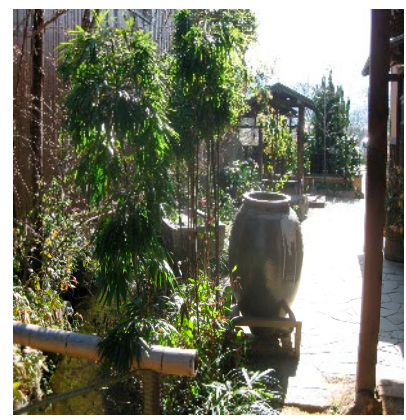




出会いの里（駐車場
と新町商店街とが通
じる小道）



出会いの里



出会いの里



新町1・2丁目商店街と宮町商店街に
通じる道にある旧家



中央通り商店街入口（左側：新町1・2丁
目商店街）



宮町商店街の通りにある各商店街の
店舗案内板



住吉神社参道（宮町商店街）



ポケットパーク



計屋醸造元



亀乃屋呉服店



中央通り商店街



昭和の町展示場（旧大分合同銀行）



中央通り商店街



銀座商店街



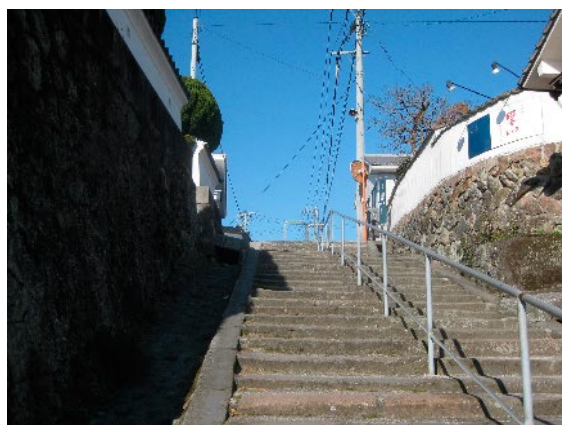
下町全景（「鉄砲町」と「風呂屋町」：鉄砲仕
組み屋敷があったといわれている地区）



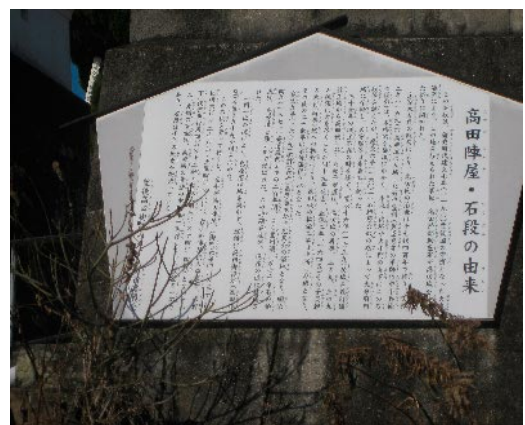
高田陣屋の石段の説明板



高田城址（陣屋址）の石組



高田城址（左）とそば処「響」：豊後高田
はそば産地で春・秋 2 回栽培



高田陣屋・石段由来の説明板



下町（「鉄砲町」と「風呂屋町」：鉄砲仕
組み屋敷があったといわれている地区）



旧共立高田銀行



瓦屋呉服店



春祭りの日の中央通り商店街



新町 1・2 丁目商店街入口



新町 1・2 丁目商店街



旧共同野村銀行



夢博物館裏とバス

5. 香川県高松市

高松市は、1587（天正 15）に年生駒親正[いこま ちかまさ：1526（大永 6）年～1603（慶長 8）年：慶長 15 年讃岐高松に移り 6 万 1 千石となり、豊臣政権の中老職となる。関ヶ原の戦いで西軍に属し、敗れて高野山に閉居したが、子の生駒一正の栄達により許されている]が香東郡^の篁原^{はらのしょう}庄（現在の旧市内）に高松城と城下町を築き、それが基礎となっている。松平頼重[まつだいら よりしげ：1622（元和 8）年～1695（元禄 8）年：徳川頼房の長男で、光圀の兄である]が、1642（寛永 19）年に讃岐高松 12 万石加増転封。戦略的に高松城を^{みずき}水城の構えに修築している。頼重は領内治政では、^{こんびらだいこんげん}金比羅大権現（金刀比羅宮）をはじめ有名社寺の再興に意を用い、信仰心によって民心安定を図るとともに、高松藩の基礎を築いている。高松市は 1980（昭和 55）年の 386,547 人から、合併等を繰り返し増加傾向を示し 2005（平成 17）年現在の人口は 418,125 人であり、都市雇用圏人口は約 64 万人を形成している。

高松市は四国の支店経済都市であり、本四架橋の開通、四国内の高速交通網整備で四国の拠点都市として発展してきたが、バブル経済の崩壊後の構造不況とともに高松市の経済もその影響で中心部商店街の店舗の閉鎖が進行していった。高松市中心部の商店街（中央商店街）は兵庫町商店街（兵庫は江戸時代に高松藩の武器庫があったのが由来。周りにビジネス街および官公庁があり、平日はビジネスマンが多い。）、片原町商店街（高松城の堀埋めたときに町の片方が原っぱであったとのことが由来。ドームを挟み左が兵庫町商店街右が片原町商店街である。）、丸亀町商店街（南北に伸びる商店街で北はドームまでである。生駒親正は当初丸亀城に居住したが、幕府から一国一城の命に従い、高松^{たまも}玉藻城に移り丸亀から町人を連れて商売をさせたのが由来。）、ライオン通商店街（高松市の歓楽街であり、丸亀町商店街の 1 本東側にあり、繁華街の中を南北に伸び昼夜人通りがある。この通りの名の由来はライオンカンという洋画系映画館があったとのことである。）、南新町商店街（丸亀町商店街の南にあり、昔高松市の南限で、南にある新しい町ということに由来。高級衣料品店、ジュエリー店、若者向けジュエリー店、ライブハウスなどがある。）、常磐町商店街（この地区にあった旅館常磐本館からの名に由来。闇市から出発している。）および田町商店街（南新町商店街の南にあり、江戸時代に田畑がこの地区にあったことに由来。）があり、商店街のほぼ全てを覆うアーケードは総延長が 2.7 km で、総延長では日本一の長さを誇り、丸亀町商店街のアーケードの高さ（ドーム直径 26m、高さ 32.2m）も日本一である。約 800 の小売店や飲食店が軒を連ね、一日の通行量は 28 万人で、丸亀町商店街周辺は全国チェーンの店やデパートにおいて高級品を取り扱う店舗が多く、南新町および常磐町商店街などに南進するほど庶民的な店舗となっていた。

近年、高松市郊外に大型ショッピングセンターなどが建設され、消費者の購買行動の変化が生じ、有力テナントなどの撤退、老舗の閉鎖など空き店舗が増え商店街再生が急務であった。その再生のために、丸亀町商店街では、北から A 街区～G 街区までの 7 地区に分けて再開発がなされている。この再開発には地元の丸亀町商店街振興組合とともに国土交通省委託高松丸亀町商店街タウンマネジメントプログラム構築事業の一環でコンサルタン

ト（西郷真理子氏）が大いに関係を持って推進されている。丸亀町商店街や兵庫町商店街は駐輪場が整備されており、丸亀町商店街のなかにはドーム、百十四銀行の整備、評判の讃岐うどんの店舗もあり整備が進んでいる。また、高松丸亀町商店街事業の他に高松港頭地区総合整備事業（サンポート高松）、瓦町駅地区市街地開発事業、琴電片平町駅西地区再開発事業がなされている。

観光としては多くの地があるが、とくに玉藻公園（高松城址）、栗林公園（この公園の起りは元亀、天正の頃から当地の豪族であった佐藤氏により築庭、その後 1625 年頃生駒高俊、1642 年に松平頼重に引き継がれ、歴代の藩主が修築を重ねて 1745 年に完成。6 つの池と 13 の築山を巧みに配した江戸時代初期の回遊式大名庭園である。）、少し足を伸ばせば金比羅宮[琴平線始発は高松築港：天満屋瓦町（瓦町を分岐に琴平方面 2 番乗場、長尾方面、屋島・八栗・志度方面へ）から琴電琴平まで約 1 時間]がある。

<http://www.machinakasaisei.jp/committee/introduction/member07.html>

<http://www.ja.wikipedia.org/wik/>

香川県栗林公園観光事務所「特別名勝 栗林公園案内図」

香川県社交飲食業生活衛生同業組合高松支部「いいところ高松一夜のガイドマップ」

歴史・文化道推進協議会『四国 歴史文化道』歴史・文化道推進協議会，2008.

高松観光コンベンション・ビューロー「高松 TOWN MAP」

高松市観光振興課「高松遊歩人」

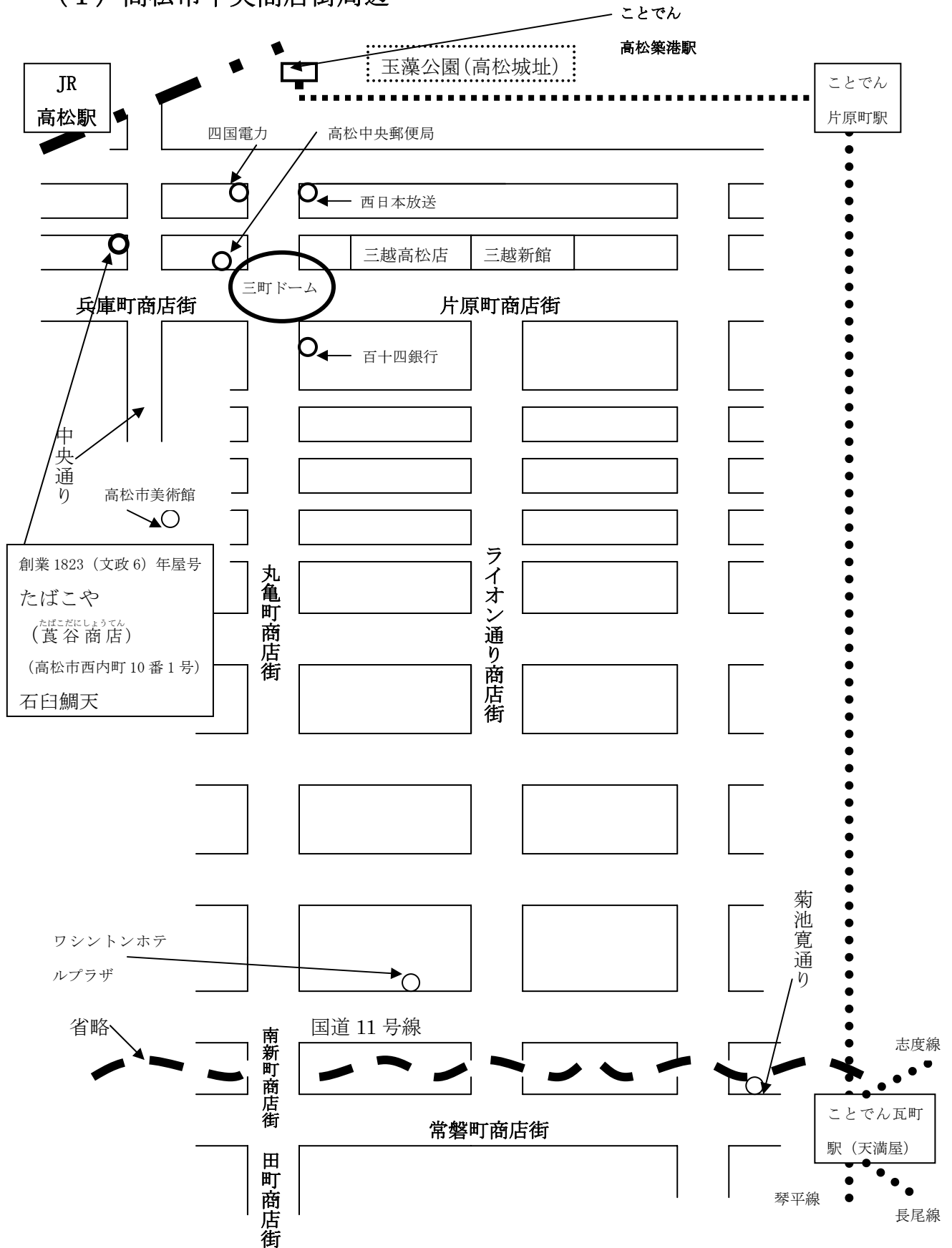
高松商工会議所『「味」な高松 おすすめガイド 2010』高松商工会議所，2009.

新潮社辞典編集

部『新潮日本人名事典』新潮社，1995.

三省堂編修所『コンサイス日本人人名事典』三省堂，1999.

(1) 高松市中央商店街周辺

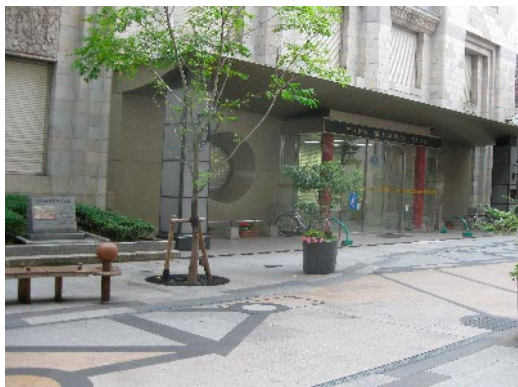




三町ドーム
(丸亀町商店街)



百十四銀行創業の地の碑
(丸亀町商店街)



百十四銀行
(丸亀町商店街)



うどん市場
(兵庫町商店街)



兵庫町第2駐輪場
(兵庫町商店街)



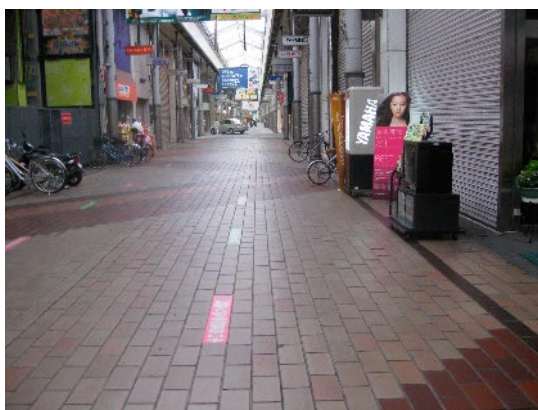
夜の丸亀町商店街



夜の丸亀町商店街



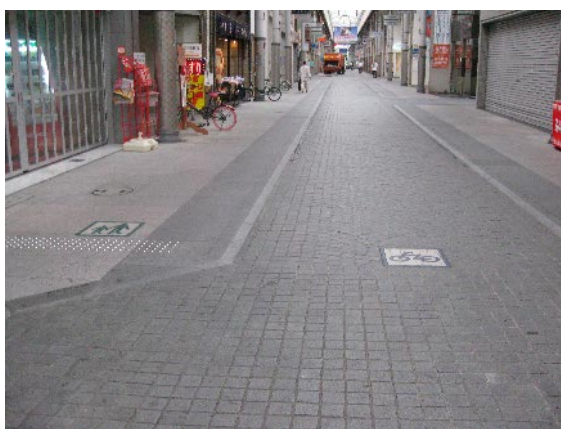
丸亀町商店街の自転車通行の注意



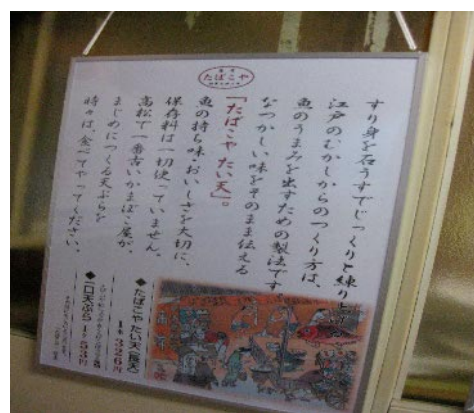
朝の丸亀町商店街



丸亀町商店街からライオン通り商店街方面の朝の歓楽街



丸亀町商店街の人と自転車の区分



「たばこやたい天」の説明板
(高松市西内町 10 番 1 号)



「たばこやたい天」
(高松市西内町 10 番 1 号)



「たばこやたい天」
(高松市西内町 10 番 1 号)

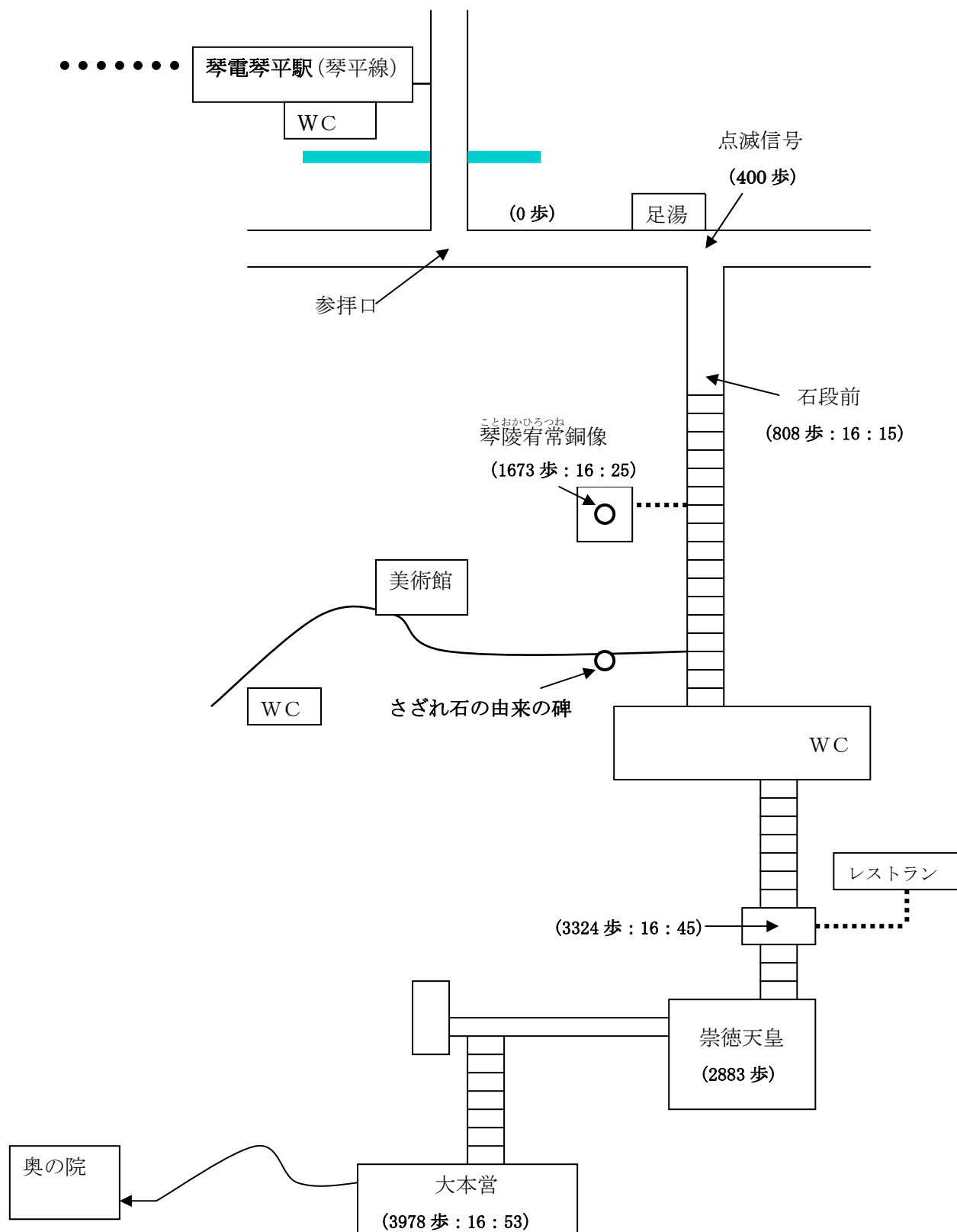


菊池寛の説明板（菊池寛通り）
常磐町商店街の一本北の通り



菊池寛の碑（菊池寛通り）
常磐町商店街の一本北の通り

(2) 金比羅宮周辺





琴電琴平駅



金比羅宮への入口の石段



琴陵宥常：金比羅大権現を金比羅宮と改め、御本宮再営や金比羅山博覧会を開催した宮司



参道（石段）



金比羅本教



金比羅宮への石段



石段



ご祭神の崇徳天皇（石段の上）



本宮への石段



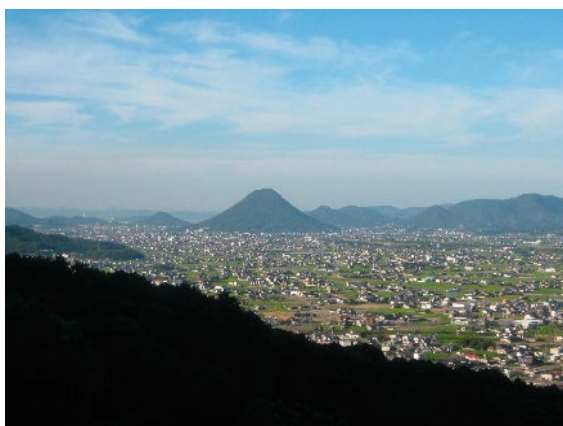
御本宮



御本宮



御本宮から讃岐平野と讃岐富士
(丸亀城址方面)



讃岐富士と丸亀城址（左側）



御本宮



「国家に詠まれているさざれ石の由来」の碑

6. 埼玉県川越市

川越市の人口は 2010（平成 22）年 343,161 人で、1975（昭和 45）年 171,029 人、1975（昭和 50）年 225,465 人、1980（昭和 55）年 259,314 人、1985（昭和 60）年 285,437 人、1990（平成 2）年 304,854 人、1995（平成 7）年 323,353 人、2000（平成 12）年 330,766 人、2005（平成 17）年 333,795 人と増加傾向を示している。このことは県内に政令都市のさいたま市があり、また東京首都圏に近いということも関係しているであろう。川越市は小江戸川越として有名である。川越市の本川越駅までは東京新宿から西武新宿線急行で約 30 分、川越駅までは東京池袋から東武東上線急行で約 30 分であり、川越駅から本川越駅まで徒歩で 15 分である。この 2 つの交通機関のほかにも JR および高速バスなどもあるが、「蔵造りの町並み」界隈を訪れるならば西武新宿線が便利である。この「蔵造りの町並み」界隈は市街地の北側にあり、江戸時代の雰囲気をもそのまま残した蔵造りの町並みであるので「小江戸（こえど）」とよばれ、小江戸川越は年間約 600 万人の観光客が訪れているとのことである。「蔵造りの町並み」界隈には西武新宿線の終点本川越駅（川越プリンスホテル）前の中央通りを北へ進むと 10 分ぐらいで着く。この町並みは 2009（平成 21）年 4 月～9 月まで放送された NHK 連続テレビ小説「つばさ」の舞台となっている。

川越市はコンパクトにまとまっていて川越駅と本川越駅両周辺の新富 2 丁目にクレアモール・新富町商店街・丸廣百貨店・イトーヨーカドーなどがあり、その北は中央通り商店街、新富町 1 丁目を北進すると大正浪漫通りがある。この通りには熊野神社（連雀山車展示、川越銭洗弁財天・足ツボ）、旧鶴川座、日除け稲荷神社、出世稲荷、旧川越織物市場があり、その北に蔵造りの町並みがある。この町並みには山崎美術館、埼玉りそな銀行川越支店（旧八十五銀行本店で西洋建築様式を基調とした大正特有の雰囲気の建物）、服部民俗資料館（服部家住宅）、蓮馨寺^{れんけいじ} [1549（天文 18）年、川越城主大道寺駿河守政繁が母堂蓮馨大姉のために創建。呑龍上人の像が安置され、「子育ての呑龍様」として親しまれている]、時の鐘 [1861（文久元）年小川五郎衛門栄長によって鑄造された銅鐘は 1893（明治 26）年焼失、翌年再建]、薬師神社（時の鐘の下をくぐった右横にある）、蔵造り資料館、大沢家住宅 [蔵造り建築の中で最も古く、呉服太物を商っていた近江屋半右衛門が 1792（寛政 4）年に建てている。明治の大火の焼失から免れている]、蘭山記念美術館、菓子屋横丁（昭和ロマンを感じさせる駄菓子を生産販売している。昭和初期 70 軒、現在は 20 軒となっており、町内のハッカ飴や駄菓子、焼き団子の香りは平成 13 年環境省主催の「かおり風景百選」に選ばれている）などがある。蔵造りの町並みの土蔵造り [1720（享保元）年に幕府の奨励により、耐火性のある蔵が造られた。全盛期には 200 棟以上の蔵造りがあったが、現在では元町、幸町、仲町の大通り沿いに 30 数棟残っている]、重厚な開き扉および堅牢な瓦屋根は明治時代の川越大火にも耐えているとのことである。他に本丸御殿 [川越城は 1457（長祿元）年上杉持朝の命により太田道真、太田道灌親子によって建てられた。太田親子は江戸城の原型構造を築いている。川越藩は 1590（天正 18）年、徳川家康が関東地方を征服した際、設けられている。川越は江戸を守るための軍事的拠点だけでなく、江戸へ物資を送るための商業的な交通の要所としても発展した] ゾーンに川越の僧鎮守・氷川神社（514 年に

建立されたといわれている。川越まつりはこの氷川神社からはじまっている)、喜多院ゾーンに川越大師としての喜多院(天海僧正が16世紀末に喜多院に大僧正として来ている)・仙波東照宮(徳川家康の棺が日光へ運ばれる途中、4日間喜多院に留まっている)などがある。ところで、川越氷川祭は町ごとに県指定文化財の10の山車がある。

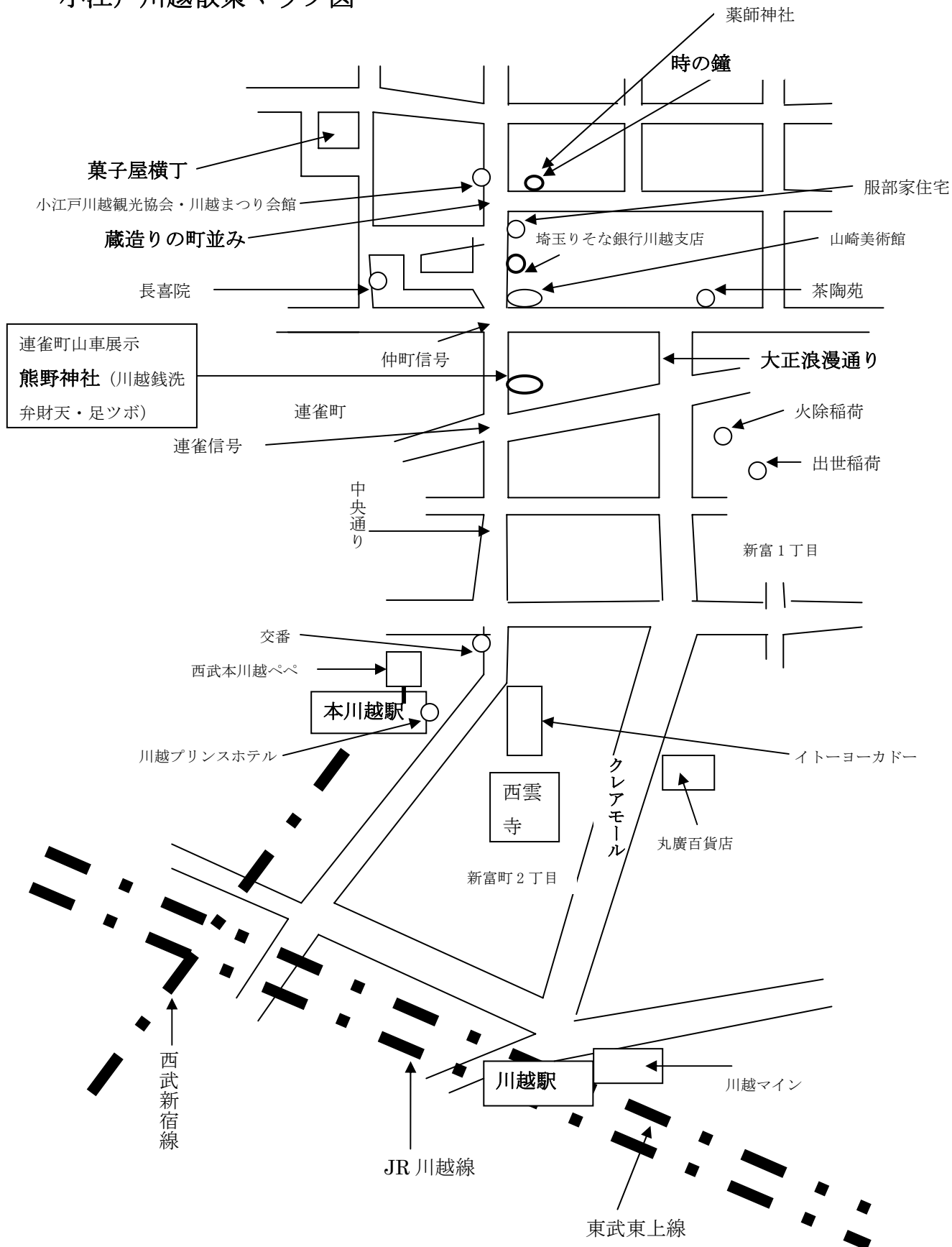
川越市公式ホームページ <http://city.kawagoe.saitama.jp/>

小江戸川越観光協会 <http://www.koedo.or.jp/>

小江戸川越観光協会「時 香るまち川越 見る遊ぶ小江戸川越」

Kawagoe City Tourist Information Office, *Enjoy KAWAGOE "Little Edo"*

小江戸川越散策マップ図





本川越駅交番前から中央通り方面



川越名店街：中央通り



山崎美術館



川越名店街：中央通り



熊野神社：川越銭洗弁財天・足ツボ



熊野神社：川越銭洗弁財天・足ツボ



蔵造りの町並み



蔵造りの町並み



蔵造りの町並み



蔵造りの町並み



蔵造りの町並み



蔵造りの町並み



時の鐘



時の鐘



時の鐘と薬師神社



薬師神社



大正浪漫通り



大正浪漫通り



蓮馨寺



中央通り：川越が桐たんすの産地をしめす看板

7. 群馬県高崎市

高崎市は、平成の三度の合併を経て、人口 369,607 人[2009（平成 21）年 9 月 1 日現在]となり、より充実した行政サービスの実現と、一層の地方分権を図ることを目的に、中核市（中核市の要件は人口 30 万人以上の市）への移行をめざしているとのことである。高崎市は古くから交通の要衝で、中山道（国道 17 号高崎以南・国道 18 号）と三国街道（国道 17 号高崎以北）の分岐点、関越自動車道と北関東自動車道の分岐点、上越新幹線と長野新幹線の分岐点ともなるなど、全国有数の交通拠点都市である。新幹線の停車する高崎駅は群馬県の県庁所在地前橋市の玄関口ともなっており、群馬県の交通の中心地であり、都市圏人口は約 53 万人とされている。市の中心地域（中心市街地）は旧群馬郡高崎町を中心とする地域で、江戸時代には高崎藩の城下町として、中山道 69 次中 4 番目に規模が大きい宿場町として、また物資の集散地・商業の「まち」として大いに賑わったとのことである。街道筋の田町、本町、新町（現：あら町）などに市が立ち、鍛冶町には鍛冶職人が、鞆町には刀の鞆師が、白銀町には金銀細工師らが住み、当時の職人の町は今も町名としてとどめている。

現代でも県内有数の商業都市として盛えている。又、高崎郊外に位置する問屋町は、日本初の郊外型問屋団地である。日本一のだるまの産地であり、国道 18 号沿いには「だるま」の生産工場が集中している。また、群馬交響楽団が本拠地を置く数少ないオーケストラのある地方都市であり、高崎市は「音楽のある街、高崎」と銘打っている。また、高崎フィルム・コミッションにより、ドラマ・映画・プロモーションビデオ等の撮影を誘致しており、しばしば高崎の市街地や学校などが登場する。毎年、高崎映画祭を開催するなど、音楽以外の芸術・文化活動も盛んである。また、昭和 40 年代の上越新幹線ルート発表を契機に市が主導となって行った再開発事業などが盛んに行われているとのことである。

また、上述の街道の他にも、いまから約 700 年前の鎌倉時代に、御家人（鎌倉幕府が成立すると鎌倉殿と主従関係を結び従者となった武士を、鎌倉殿への敬意を表す「御」をつけて御家人と呼ぶようになった）たちが鎌倉へ馳せ参じる鎌倉街道（高崎→丹荘→男衾→西大家→入曾→聖蹟桜ヶ丘→瀬谷→鎌倉の 158km）の一部が国道 17 号線の城南地区に残っているとのことである。

高崎市役所観光課・社団法人高崎観光協会「高崎おでかけナビ」2010.

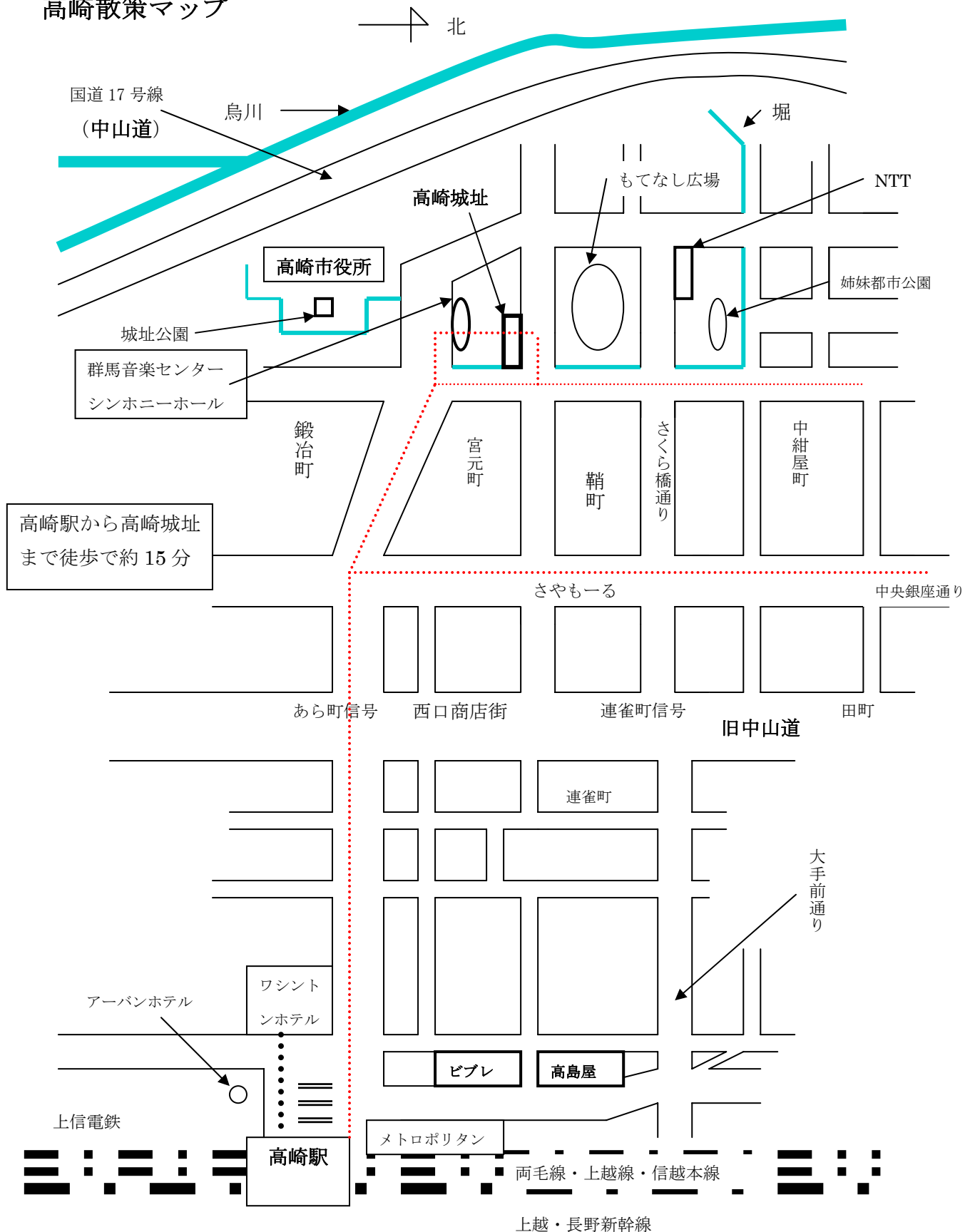
高崎市ホームページ <http://www.city.takasaki.gunma.jp/>

高崎観光協会「高崎まち歩きマップー高崎 ART 散歩 vol. 2ー」高崎市.

高崎観光協会 <http://www.takasaki-kankoukyoukai.or.jp/>

<http://home.att.ne.jp/sea/yahiro/kamakurakaido.html>

高崎散策マップ





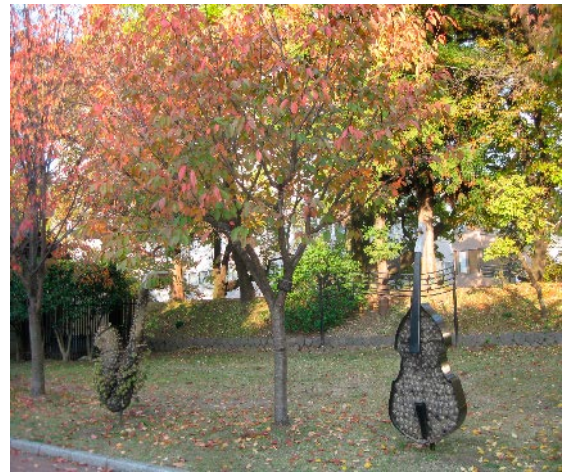
高崎駅



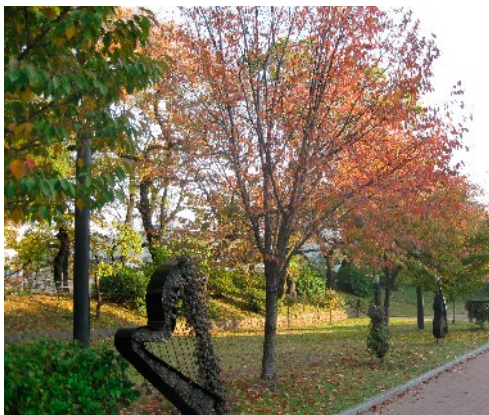
あら町 諏訪神社



あら町 山車蔵



群馬音楽センター・シンホニーホール前の公園



群馬音楽センター・シンホニーホール前の公園



高崎城址



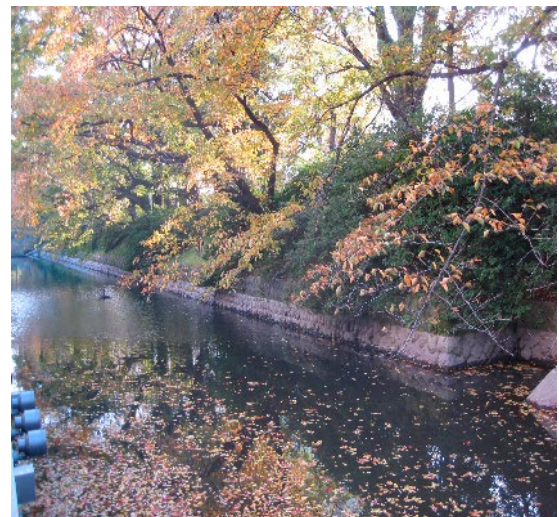
高崎城乾櫓



高崎城乾櫓



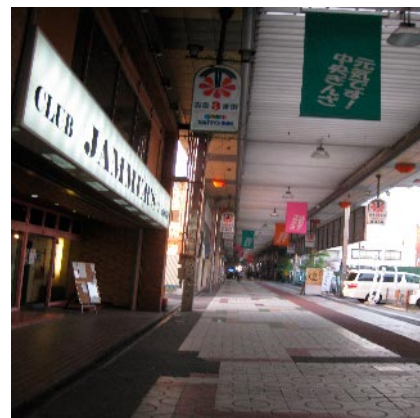
高崎城乾櫓



高崎城址のお堀



高崎城址堀端前の通り



中央銀座通り



鞘町の生いたち



中央銀座通り



南銀座通り



南銀座通り



南銀座通り：職人の町



鍛冶町にある古民家

おわりに

筆者は『早良逍遙マップ記―歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ―』、『続 早良逍遙マップ記―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―』および『福岡都市圏歴史散策マップ記』を上梓したときにも述べましたが、伝承および文献などで得た情報をもとに本書で取り上げた史跡名勝を散策し、その確認のために人々への聞き取りをおこなうことをいたしますが、その史跡名勝を知る人々は時を重ねるごとに少なくなり、また知っている人々でさえ記憶も薄らいでいるように思われます。しかも、福岡都市圏に限らず多くの地域では開発が進み史跡名勝そのものが無くなるケースや、別の場所へ移されているケースなども見受けられます。とくに、産業遺産的な遺構はその傾向が強いものとなっています。われわれは子供たちに「歴史を知ることにおいて、未来に繋ぐ」ことを、地域の皆様とともに教えていく必要があります。そのようなことから、本書が地域の人々の関心を得、地域社会にさまざまな形で寄与することを期待いたします。

[著者紹介]

内山 敏典（うちやま としのり）

現在、九州産業大学経済学部教授、九州産業大学大学院経済・ビジネス研究科教授

専攻：統計学, 計量経済学

担当科目：統計学, 計量経済学およびゼミナール科目（学部）

数量経済分析, 統計学研究, 統計学セミナー, 調査研究(消費需要), 経済課題研究,
経済学演習（大学院経済・ビジネス研究科博士前期課程）

計量経済学特別研究, 計量経済学論文演習（大学院経済・ビジネス研究科博士後
期課程）

心理統計法（大学院国際文化研究科博士前期課程）

経済学修士

博士（農学）

主要著書

『アンケート調査に基づく専門教育科目の授業効果分析』（共著）九州大学出版会, 1989
年.

『消費需要の計量的分析—食肉消費を事例として—』（単著）晃洋書房, 1992 年.

『間接税改革の国際比較』（共著）九州大学出版会, 1993 年.

『統計解析技法』（単著）晃洋書房, 1993 年.

『消費構造の変容とその統計的分析』（単著）晃洋書房, 1995 年.

『余暇関連財需要の計量的分析』（単著）晃洋書房, 1998 年.

『増補 統計解析技法』（単著）晃洋書房, 1998 年.

『計量分析のための統計解析技法』（単著）晃洋書房, 2002 年.

『早良逍遥マップ記—歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ—』（単著）城島印刷, 2003 年.

『看護統計テクニック—基本からパス分析まで—』（監修）医歯薬出版, 2003 年.

『続 早良逍遥マップ記—鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ—』（単著）城島印刷, 2005 年.

『トピックス統計解析技法—電卓, Excel および VBA における計算法—』（単著）晃洋書
房, 2006 年.

『基本計量経済学』（共著）勁草書房, 2006 年.

『経済・心理・医療・看護等の教育のためのベーシック統計解析技法—電卓, Excel およ
び VBA における計算法—』（単著）晃洋書房, 2008 年.

『有田・伊万里および福岡地域における消費者の意識調査分析—新しい陶磁器需要創造
および生産構造をめざして—』（共著）九州産業大学柿右衛門様式陶芸研究センター, 2009
年.

『福岡都市圏歴史散策マップ記』（単著）九州産業大学産学連携室, 2009 年.

など、著書および専門論文・COE 論文多数。

福岡(筑前)およびその関連地域の歴史散策マップ記

—とくに高取焼および元寇を例とした「まちおこし」のための文化・歴史について—

2011 年 5 月 16 日 初版発行

著 者 内山 敏典

発行 九州産業大学産学連携室

〒813-8503 福岡市東区松香台 2 丁目 3 番 1 号

TEL 092 (673) 5466

<http://www.ip.kyusan-u.ac.jp/J/uchiyama/index10.htm>

印刷・製本 よしみ工産株式会社

〒804-0094 北九州市戸畑区天神 1 丁目 13 番 5 号

TEL 093 (882) 1661 Fax 093 (881) 8467

<http://www.e-yoshimi.jp>

非売品

© Toshinori Uchiyama